

第51回 市政世論調査

《概要版》

(令和6年度)

新 潟 市

< 目 次 >

I 調 査 概 要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の項目	3
3. 調査の設計	3
4. 集計・分析にあたって	3
5. 回収結果	4
6. 区（行政区）の範囲	5
7. 回答者の特性	6
II 調 査 結 果	7
1. ラムサール条約湿地自治体認証について	9
（1）「ラムサール条約」の認知度	9
（2）実際に訪れたことがある市内の潟（湖沼）	10
（3）市内の潟（湖沼）を訪れた目的	11
（4）市内の潟（湖沼）を訪れたことがない理由	12
（5）市内の潟（湖沼）に求める機能や場所	13
2. 地球温暖化対策について	14
（1）家庭での取り組み実態	14
（2）太陽光発電設備を導入していない理由	15
（3）住宅の断熱性能強化を導入していない理由	16
（4）次世代自動車などを導入していない理由	17
3. 食育について	18
（1）食の楽しさ	18
（2）誰か（家族・友人・知人等）と一緒に食事をする頻度	19
（3）農林漁業体験の参加者の有無	20
（4）食品ロス削減の取り組み	21
（5）身近な場所（県内）でとれたものを選ぶか	22
（6）食文化（郷土料理や行事食）の継承	23
4. 新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例（共生条例）について	24
（1）「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例（共生条例）」の認知度	24
（2）共生条例を知ったきっかけ	25
（3）「障がいを理由とした差別」の具体的なイメージ	26

5. 選挙への意識について	27
(1) 政治や選挙に関する情報源	27
(2) 選挙の投票に対する考え方	28
(3) 投票に行こうと思うか	29
(4) 投票に行かない、わからないと思う理由	30
(5) 投票率向上に有効な対策	31
6. 市政全般と区政について	32
(1) 新潟市として良くなっているもの	32
(2) 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの	33
(3) 区として良くなっているもの	34
(4) 区として今後もっと力を入れてほしいもの	35

I 調 査 概 要

1. 調査の目的

この調査は、市民生活の現状、市政に対する意識を調査し、市政運営の参考とする目的で実施する。

2. 調査の項目

(1) ラムサール条約湿地自治体認証について	本質問	5問
(2) 地球温暖化対策について	本質問	4問
(3) 食育について	本質問	6問
(4) 新潟市障がいのある人もない人も共に生きる まちづくり条例（共生条例）について	本質問	3問
(5) 選挙への意識について	本質問	5問
(6) 市政全般と区政について	本質問	1問
(7) 対象者属性	本質問	5問

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：新潟市全域
- (2) 調査対象：令和6年3月末現在の住民基本台帳に登録されている15歳以上の市民
- (3) 標本数：4,000人
- (4) 抽出方法：単純無作為抽出法
- (5) 調査方法：郵送法（調査票の配付、回収とも）、インターネット回答法（回答のみ）
- (6) 調査期間：令和6年8月5日～8月23日

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入してあるので、総数と内訳の計が一致しないこともある。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

5. 回収結果

(1) 区（行政区）について

新潟市は平成19年4月の政令指定都市移行にともない8つの区（行政区）を設置している。

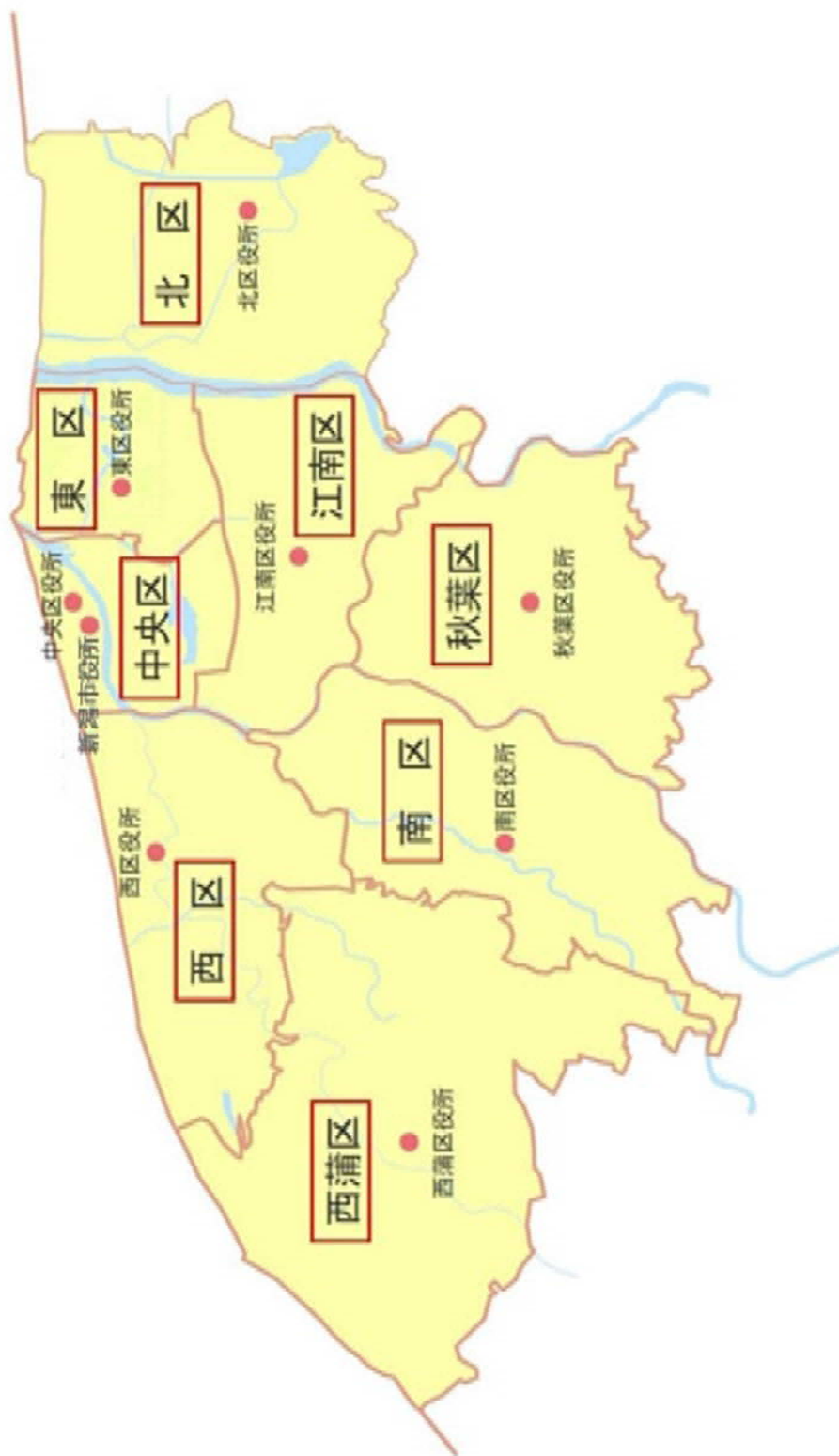
今回の調査では、対象者の居住地を8つの「区（行政区）」（次頁区分図参照）に分け、集計・分析を行った。

(2) 回収結果

	母集団 (人)	母集団 構成比	標本数 (人)	有効 回収数	有効 回収率
市全体	677,905	100.0%	4,000	2,188	54.7%
北 区	62,892	9.3%	359	171	47.6%
東 区	116,482	17.2%	699	370	52.9%
中央区	153,152	22.6%	918	525	57.2%
江南区	59,202	8.7%	334	189	56.6%
秋葉区	65,747	9.7%	369	205	55.6%
南 区	37,804	5.6%	207	110	53.1%
西 区	134,703	19.9%	853	448	52.5%
西蒲区	47,923	7.1%	261	140	53.6%
区名無回答				30	

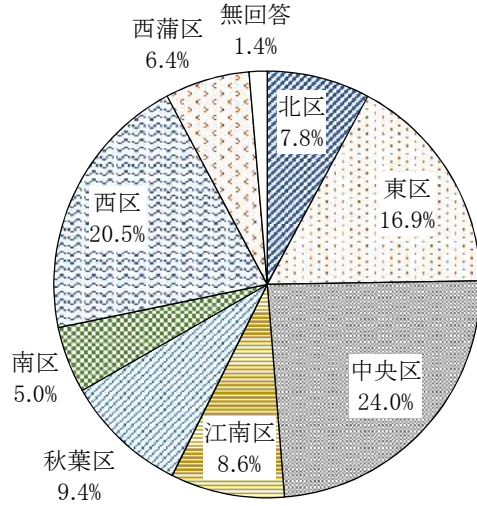
6. 区（行政区）の範囲

<区分図>

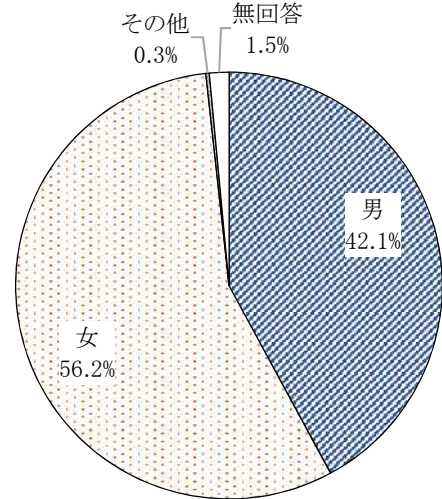


7. 回答者の特性

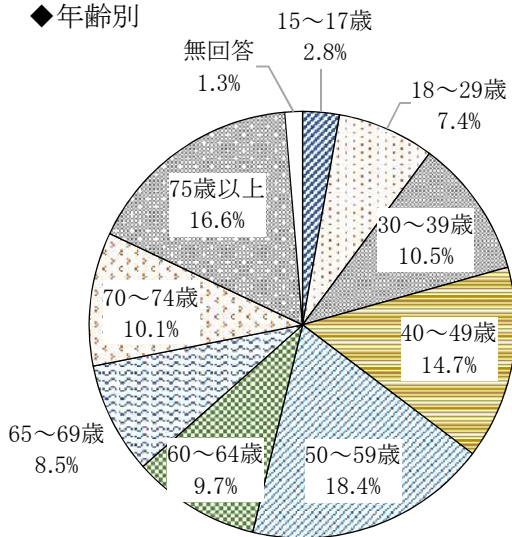
◆地区別



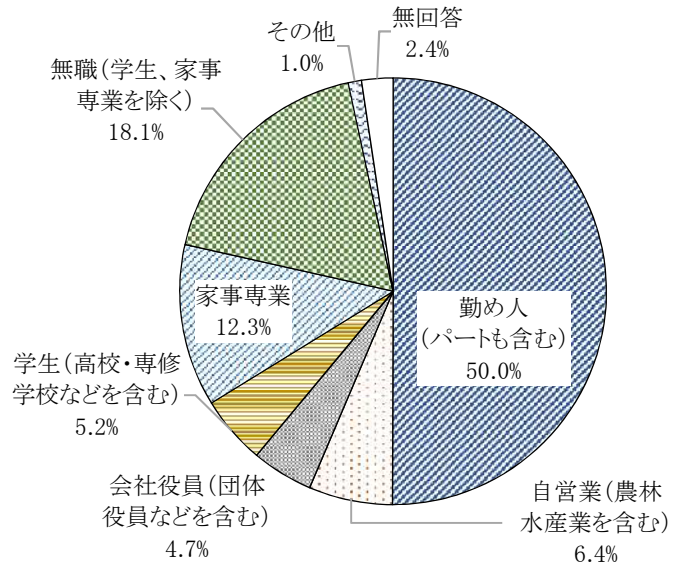
◆性別



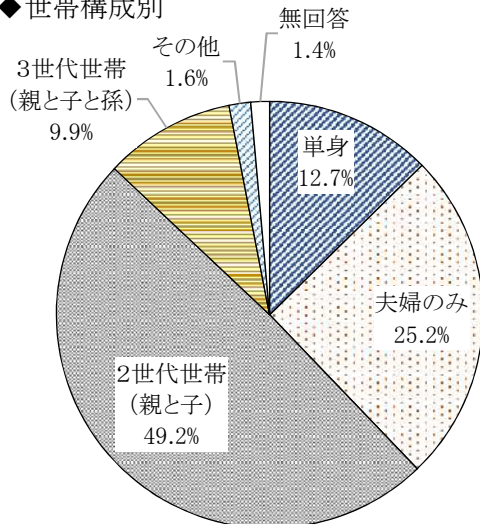
◆年齢別



◆職業別



◆世帯構成別

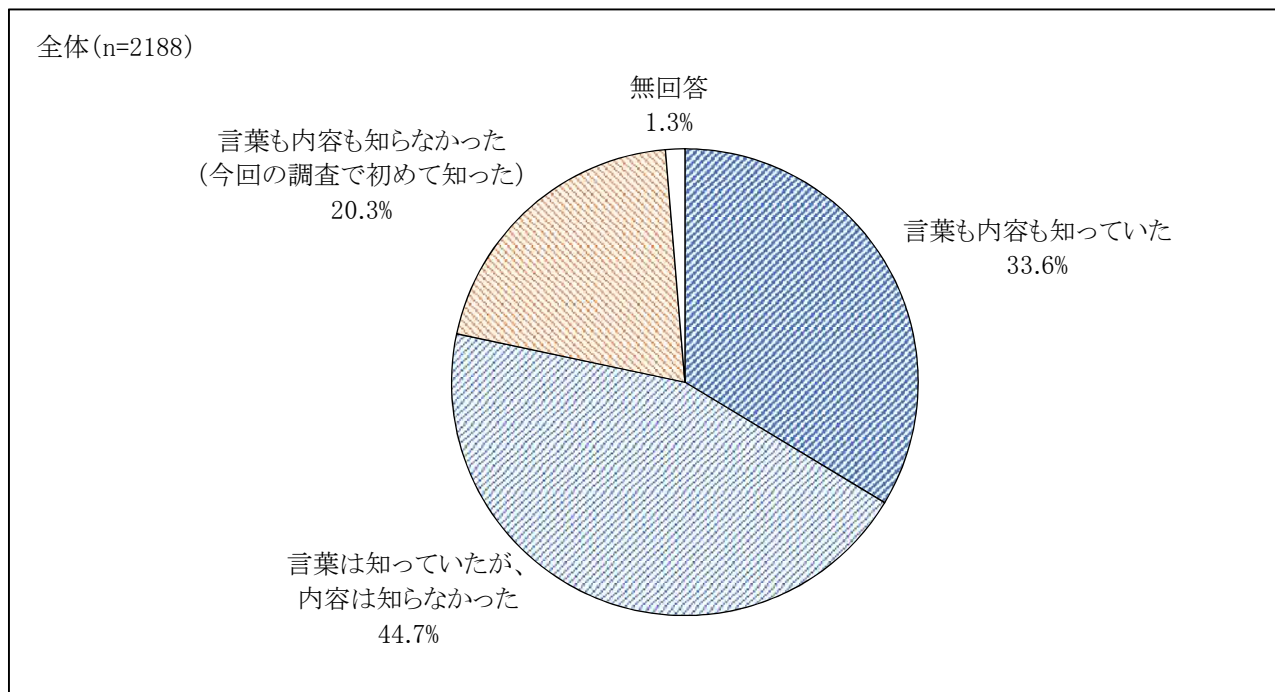


Ⅱ 調 査 結 果

1. ラムサール条約湿地自治体認証について

(1) 「ラムサール条約」の認知度

問1 「ラムサール条約」という言葉やその内容を知っていましたか。(○は1つだけ)

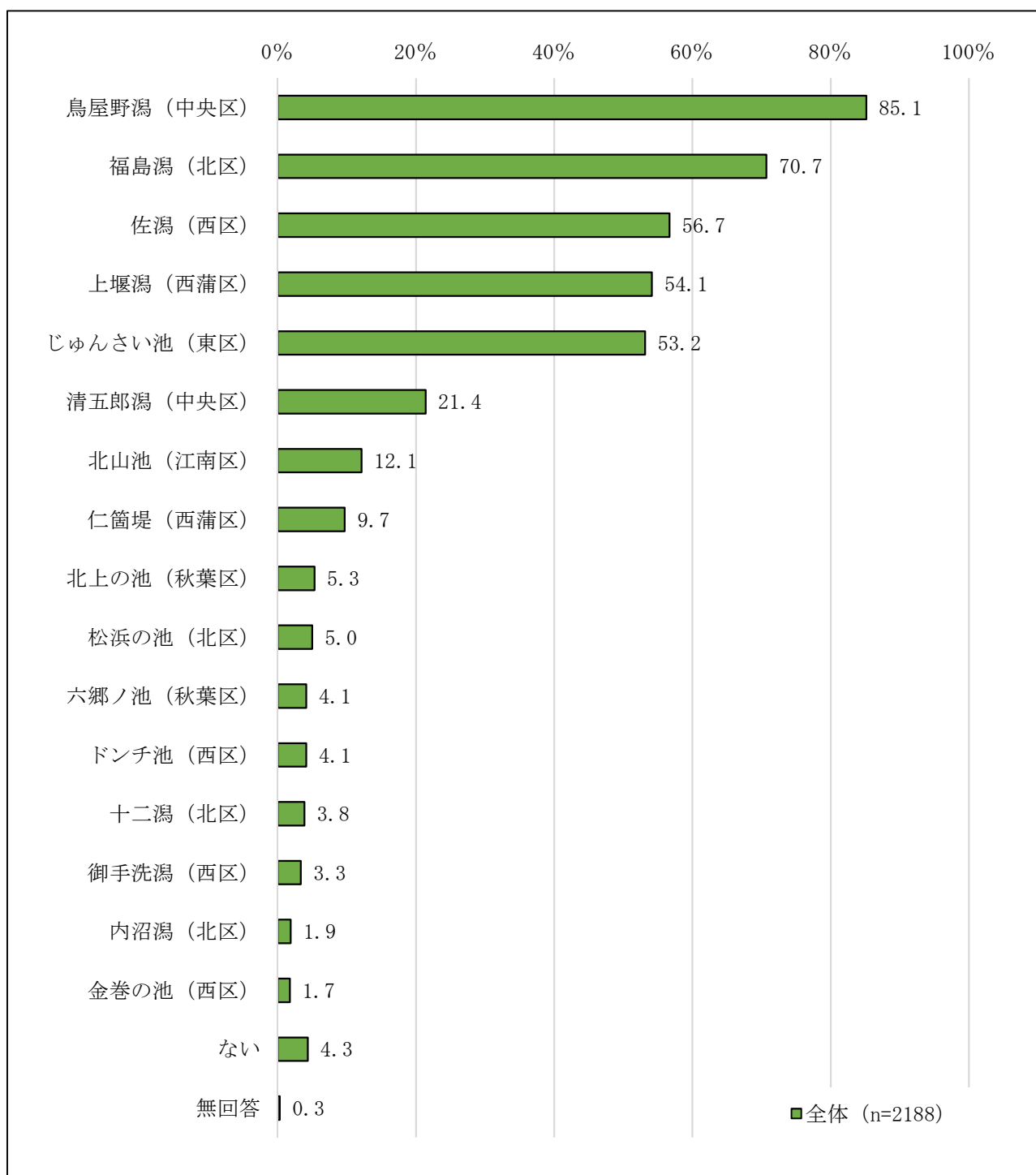


— 「言葉も内容も知っていた」が3割強 —

「ラムサール条約」について、「言葉も内容も知っていた」が33.6%で、3割強となった。「言葉は知っていたが、内容は知らなかった」が44.7%、「言葉も内容も知らなかった (今回の調査で初めて知った)」が20.3%となった。

(2) 実際に訪れたことがある市内の潟（湖沼）

問2 実際に訪れたことがある市内の潟（湖沼）はありますか。（〇はいくつでも）

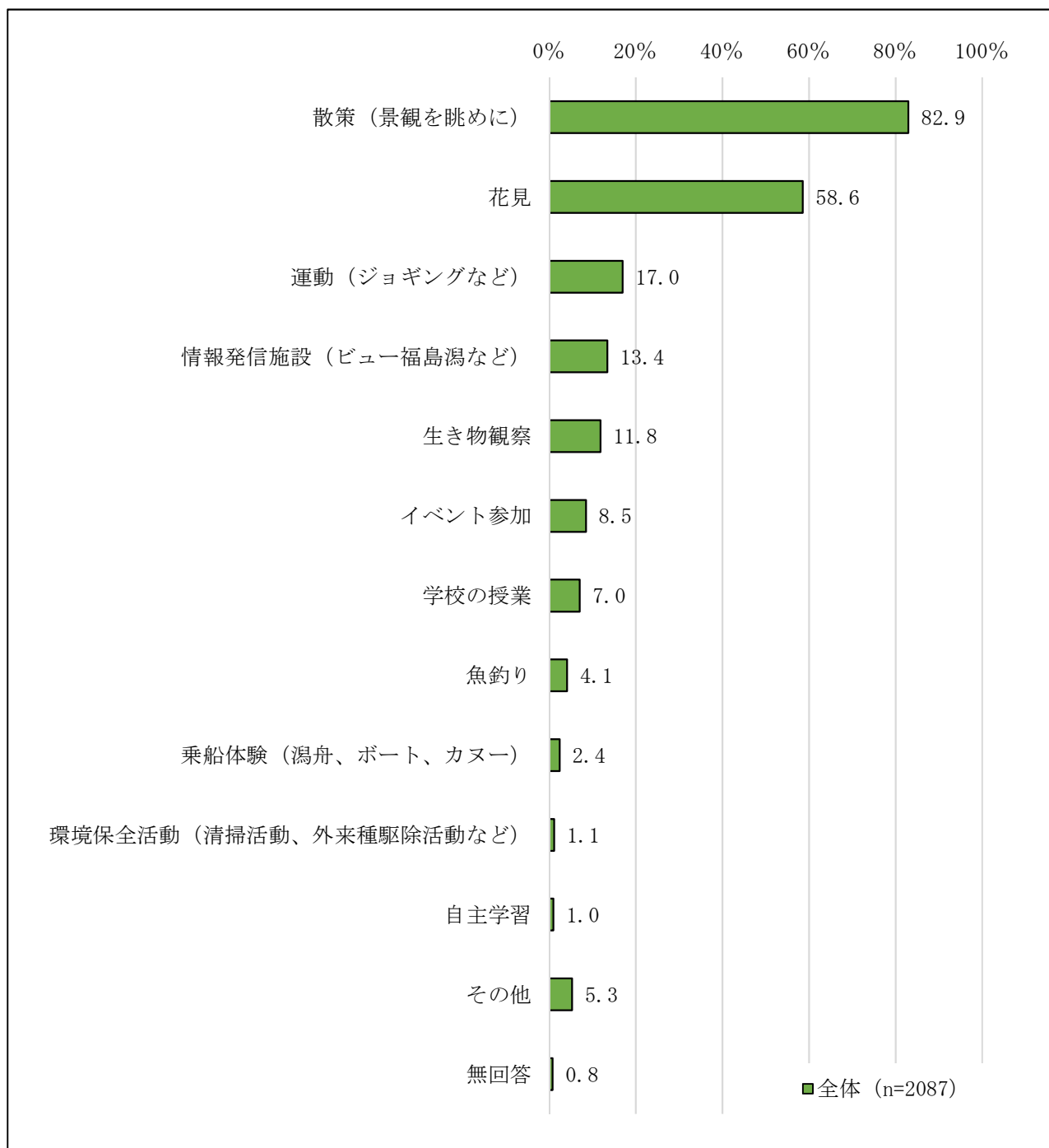


— 「鳥屋野潟（中央区）」が8割半ばでトップ —

実際に訪れたことがある市内の潟（湖沼）は、「鳥屋野潟（中央区）」（85.1%）が最も割合が高く、8割半ばとなった。次いで「福島潟（北区）」（70.7%）、「佐潟（西区）」（56.7%）、「上堰潟（西蒲区）」（54.1%）、「じゅんさい池（東区）」（53.2%）の順で続く。

(3) 市内の潟（湖沼）を訪れた目的

問3 問2で1から16をお答えになった方にお聞きします。
市内の潟（湖沼）を訪れた目的はどれですか。（〇はいくつでも）

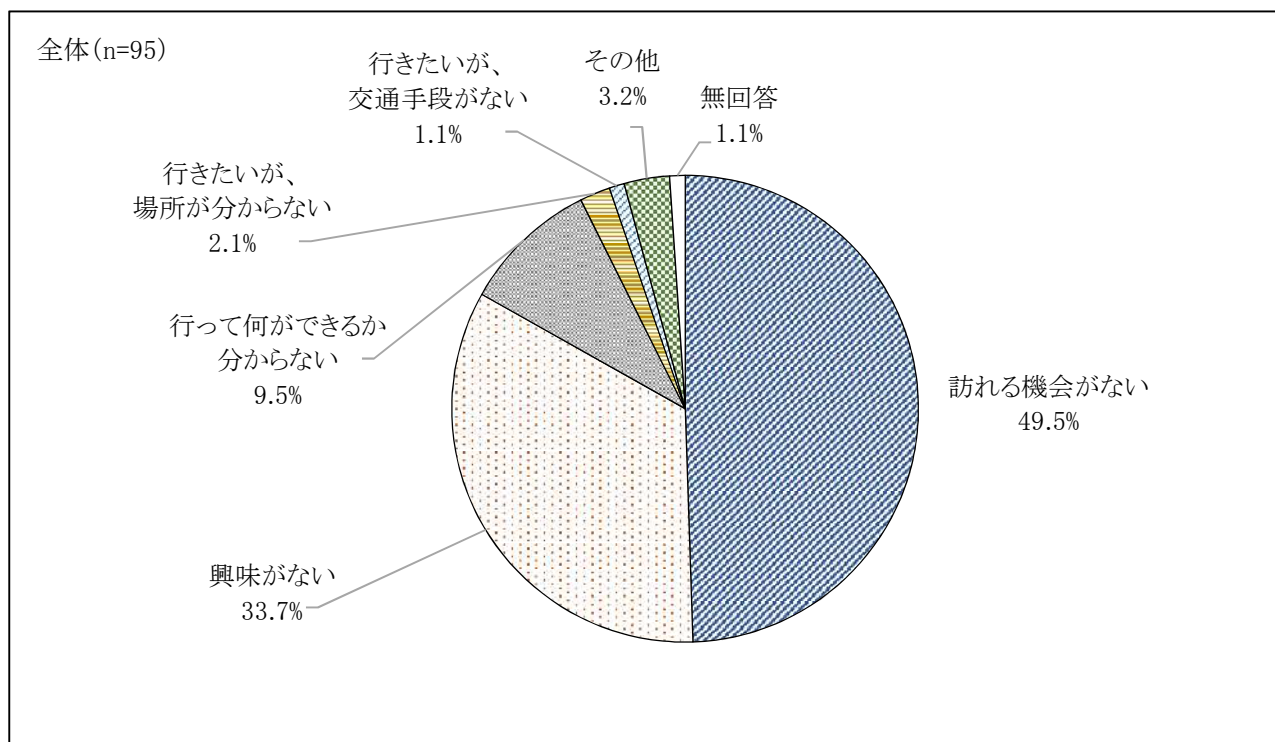


— 「散策（景観を眺めに）」が8割強でトップ —

市内の潟（湖沼）を訪れた目的は、「散策（景観を眺めに）」（82.9%）が最も割合が高く、8割強となった。次いで「花見」（58.6%）、「運動（ジョギングなど）」（17.0%）、「情報発信施設（ビュー福島潟など）」（13.4%）、「生き物観察」（11.8%）の順で続く。

(4) 市内の潟（湖沼）を訪れたことがない理由

問4 問2で17「ない」をお答えになった方にお聞きします。
市内の潟（湖沼）へ訪れたことがない理由はどれですか。（○は1つだけ）

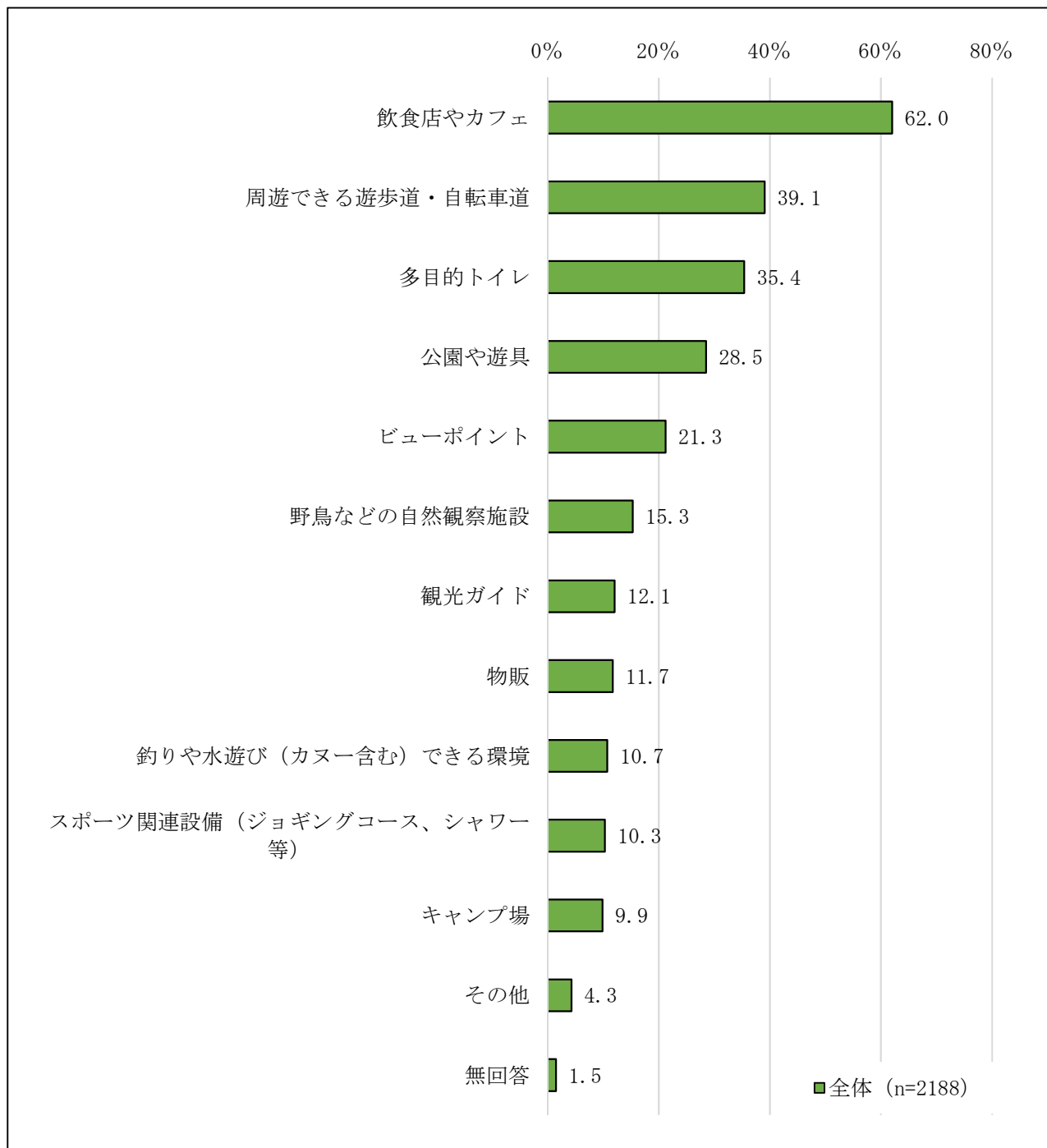


— 「訪れる機会がない」が約5割 —

市内の潟（湖沼）を訪れたことがない理由は、「訪れる機会がない」が49.5%で、約5割となった。「興味がない」が33.7%、「行って何ができるか分からない」が9.5%、「行きたいが、場所が分からない」が2.1%、「行きたいが、交通手段がない」が1.1%となった。

(5) 市内の潟（湖沼）に求める機能や場所

問5 市内の潟(湖沼)に訪れ、楽しむためには、どんな機能や場所があったら良いと思いますか。
(〇は3つまで)



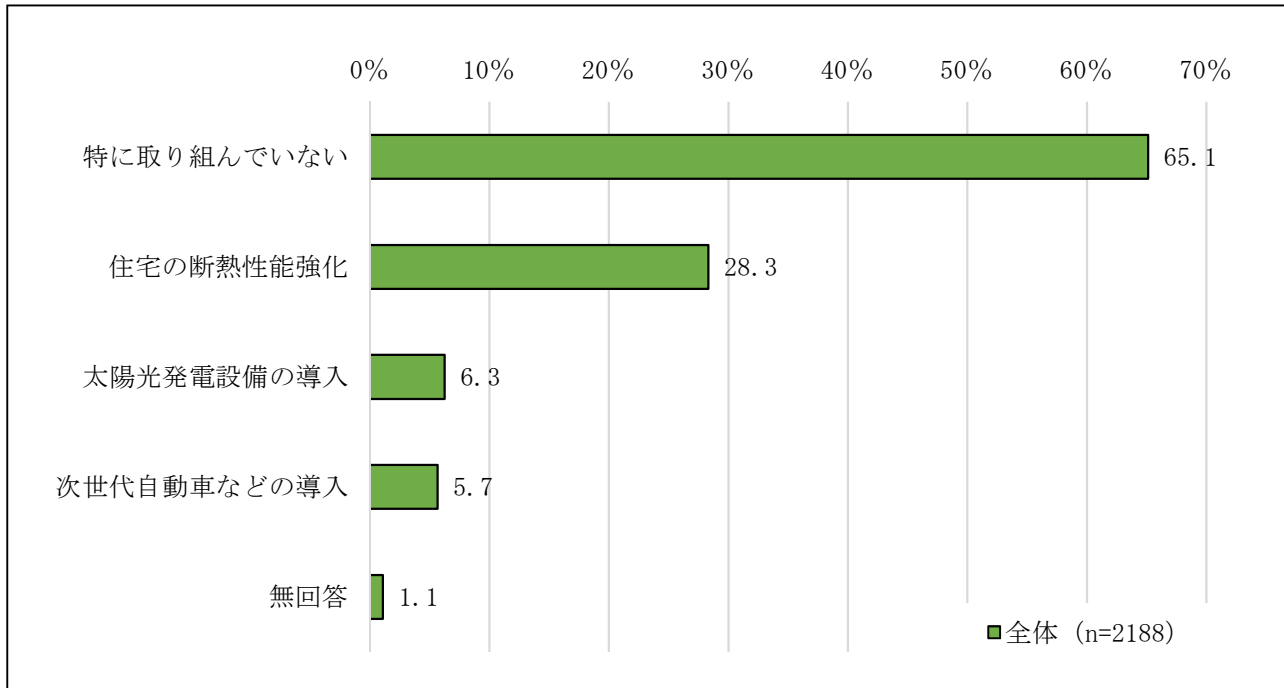
— 「飲食店やカフェ」が6割強でトップ —

市内の潟（湖沼）に求める機能や場所は、「飲食店やカフェ」（62.0%）が最も割合が高く、6割強となった。次いで「周遊できる遊歩道・自転車道」（39.1%）、「多目的トイレ」（35.4%）、「公園や遊具」（28.5%）、「ビューポイント」（21.3%）の順で続く。

2. 地球温暖化対策について

(1) 家庭での取り組み実態

問6 あなたのご家庭では以下の取り組みを実施していますか。(〇はいくつでも)

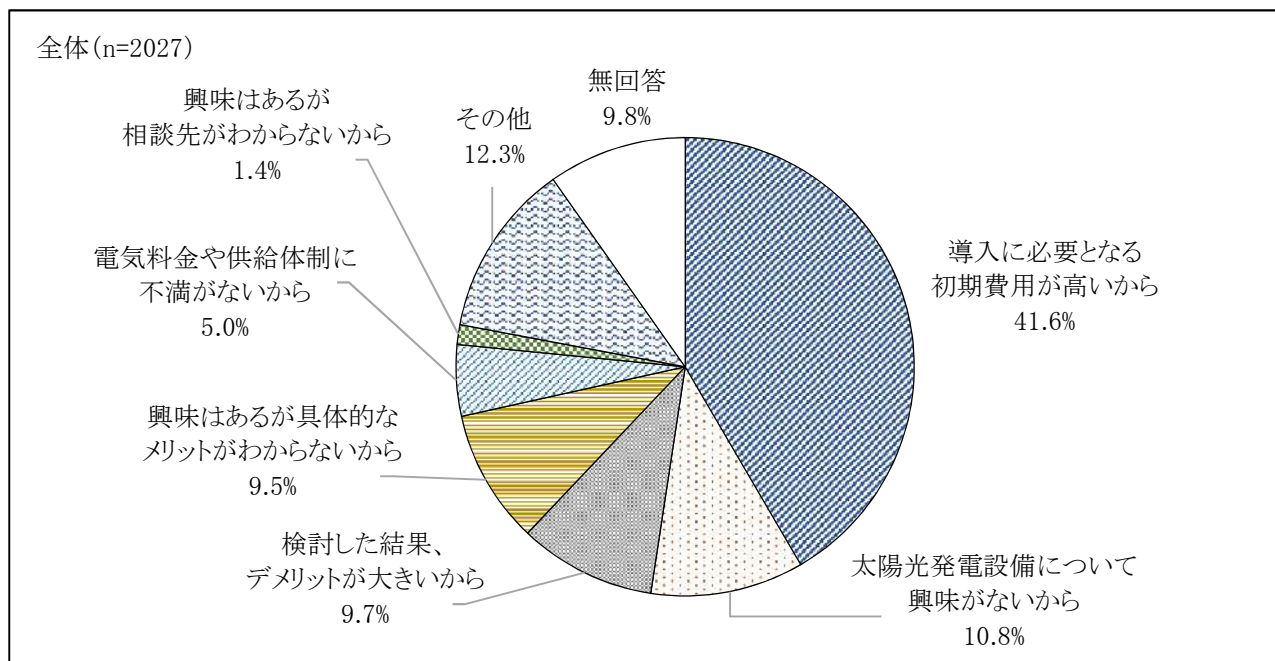


— 「特に取り組んでいない」が6割半ばでトップ —

家庭での取り組み実態は、「特に取り組んでいない」(65.1%)が最も割合が高く、6割半ばとなった。次いで「住宅の断熱性能強化」(28.3%)、「太陽光発電設備の導入」(6.3%)、「次世代自動車などの導入」(5.7%)の順で続く。

(2) 太陽光発電設備を導入していない理由

問7 問6で1「太陽光発電設備の導入」をお答えになった方は回答不要です。
太陽光発電設備を導入していない理由として、もっともあてはまるものはなんですか。
(○は1つだけ)

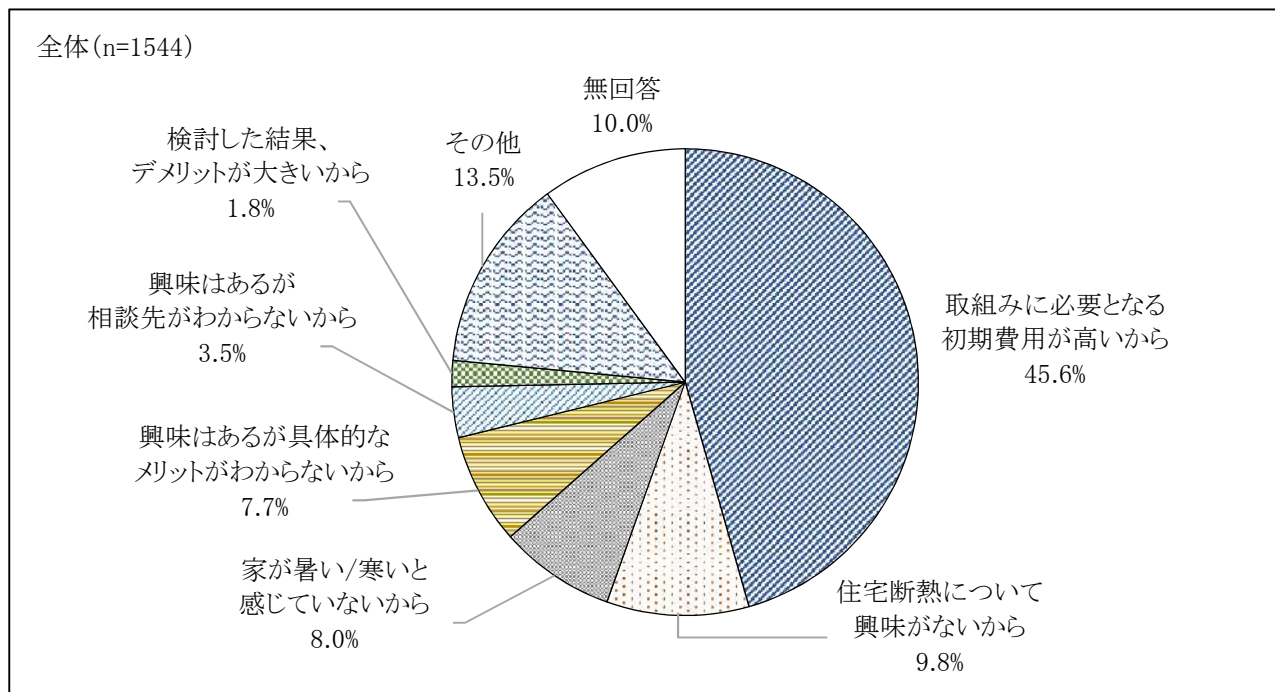


— 「導入に必要な初期費用が高いから」が4割強—

太陽光発電設備を導入していない理由は、「導入に必要な初期費用が高いから」が41.6%で、4割強となった。「太陽光発電設備について興味がないから」が10.8%、「検討した結果、デメリットが大きいから」が9.7%、「興味はあるが具体的なメリットがわからないから」が9.5%、「電気料金や供給体制に不満がないから」が5.0%、「興味はあるが相談先がわからないから」が1.4%となった。

(3) 住宅の断熱性能強化を導入していない理由

問8 問6で2「住宅の断熱性能強化」をお答えになった方は回答不要です。
住宅の断熱性能強化に取り組んでいない理由として、もっともあてはまるものはなんですか。
(〇は1つだけ)

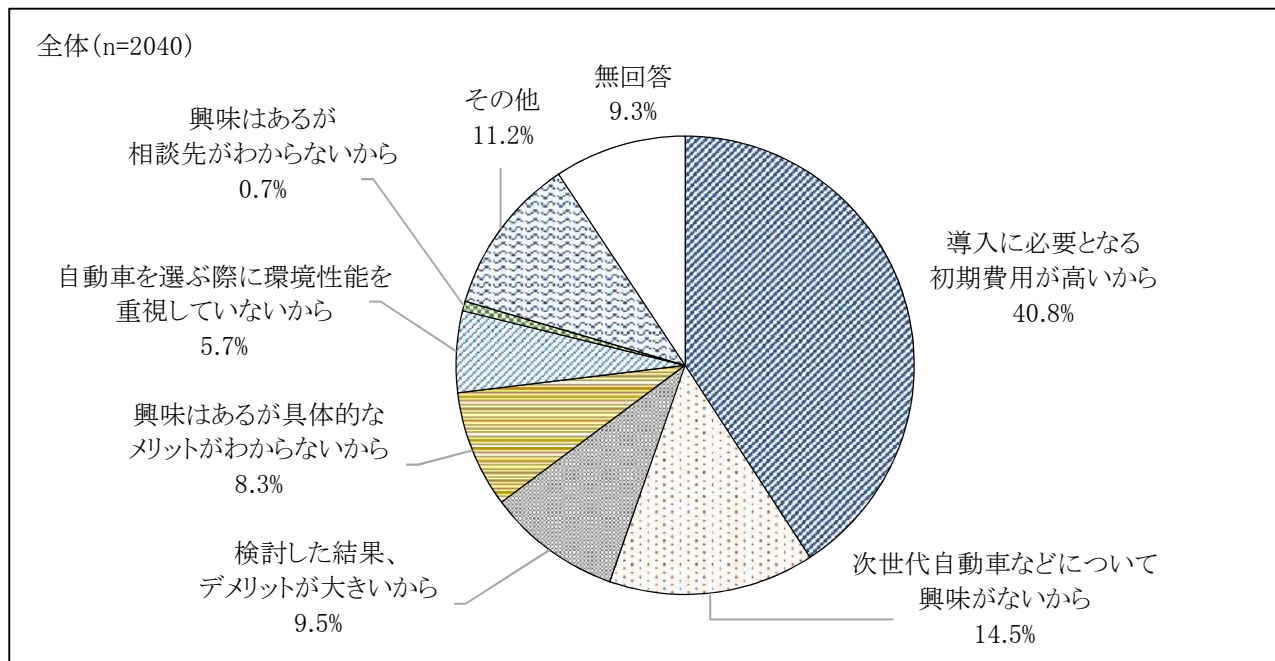


— 「導入に必要となる初期費用が高いから」が4割半ば—

住宅の断熱性能強化に取り組んでいない理由は、「取組みに必要となる初期費用が高いから」が45.6%で、4割半ばとなった。「住宅断熱について興味がないから」が9.8%、「家が暑い/寒いと感じていないから」が8.0%、「興味はあるが具体的なメリットがわからないから」が7.7%、「興味はあるが相談先がわからないから」が3.5%、「検討した結果、デメリットが大きいから」が1.8%となった。「その他」は「賃貸だから」という内容の意見が多かった。

(4) 次世代自動車などを導入していない理由

問9 問6で3「次世代自動車などの導入」をお答えになった方は回答不要です。
次世代自動車などを導入していない理由として、もっともあてはまるものはなんですか。
(○は1つだけ)



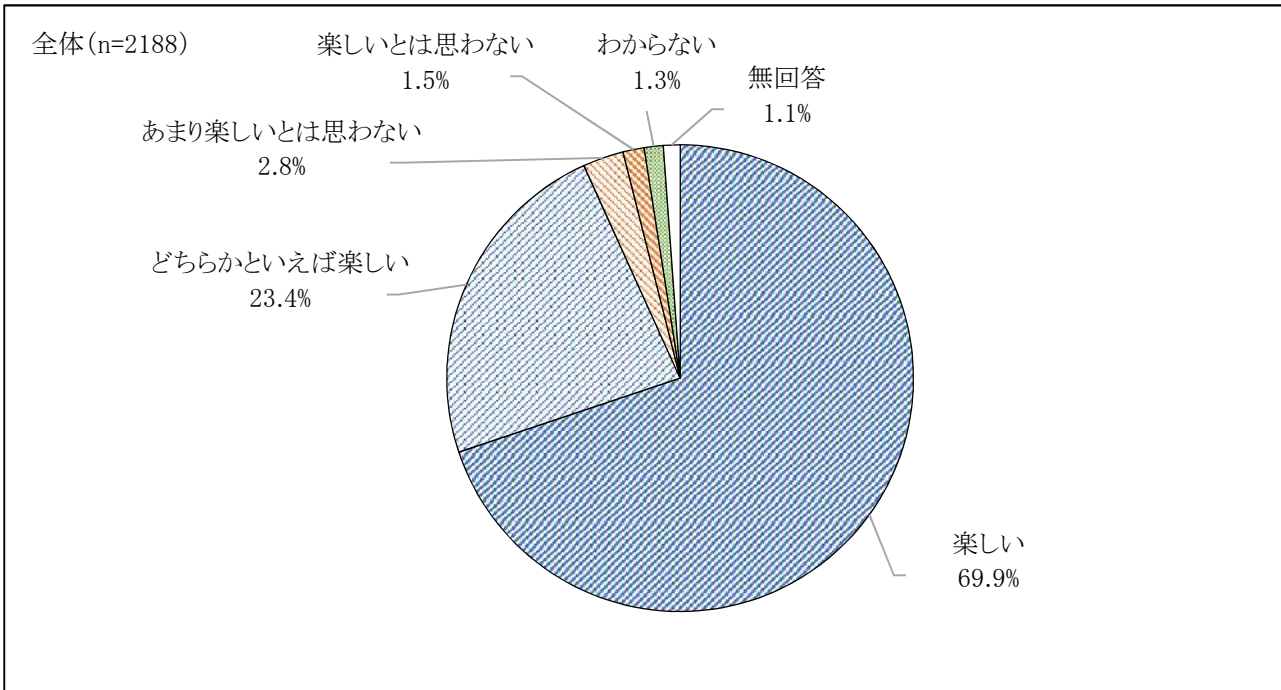
— 「導入に必要となる初期費用が高いから」が約4割—

次世代自動車などを導入していない理由は、「導入に必要となる初期費用が高いから」が40.8%で、約4割となった。「次世代自動車などについて興味がないから」が14.5%、「検討した結果、デメリットが大きいから」が9.5%、「興味はあるが具体的なメリットがわからないから」が8.3%、「自動車を選ぶ際に環境性能を重視していないから」が5.7%、「興味はあるが相談先がわからないから」が0.7%となった。「その他」は「車を持っていない」、「免許がない」といった意見が散見された。

3. 食育について

(1) 食の楽しさ

問10 食べることは「楽しい」ですか。(○は1つだけ)

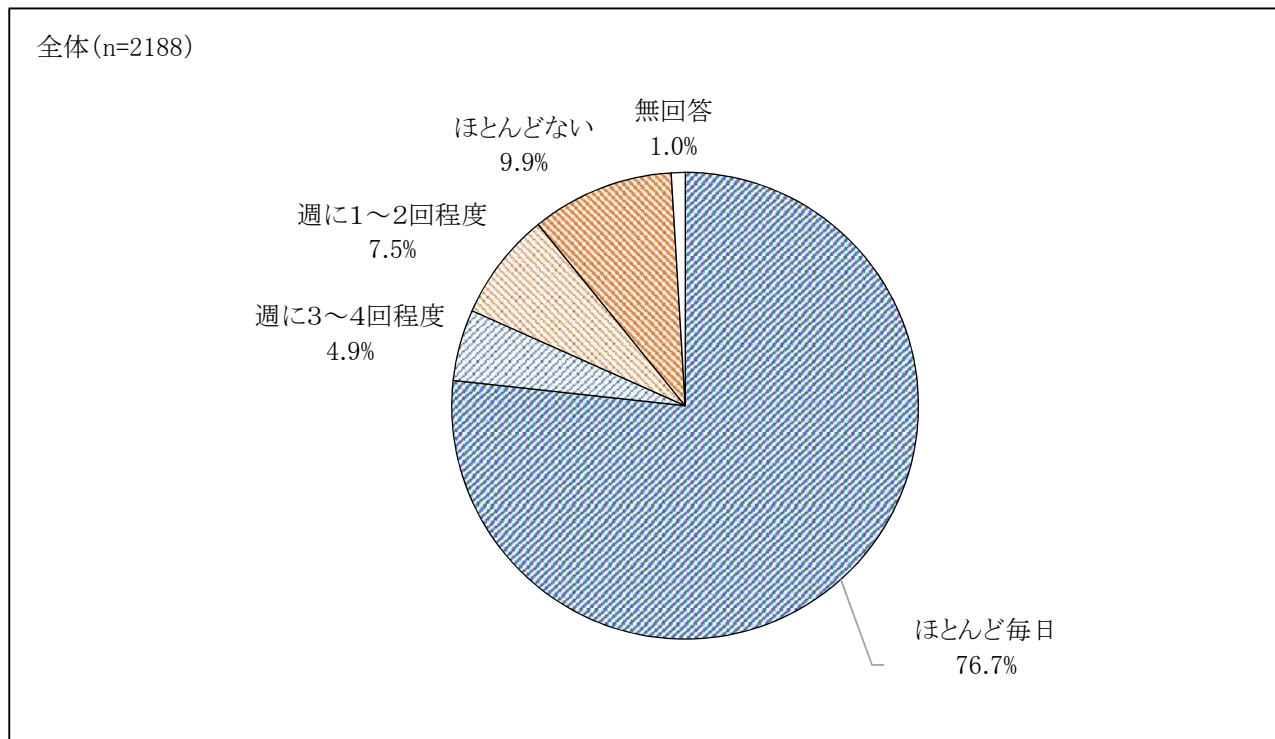


— 食べることは『楽しい』が9割強 —

食べることについて、「楽しい」と「どちらかといえば楽しい」を合わせた『楽しい』が93.3%で、9割強となった。「あまり楽しいとは思わない」と「楽しいとは思わない」を合わせた『楽しいとは思わない』が4.3%、「わからない」が1.3%となった。

(2) 誰か（家族・友人・知人等）と一緒に食事をする頻度

問11 あなたは、1日に1回以上、誰か（家族・友人・知人等）と一緒に食事をしていきますか。
(○は1つだけ)

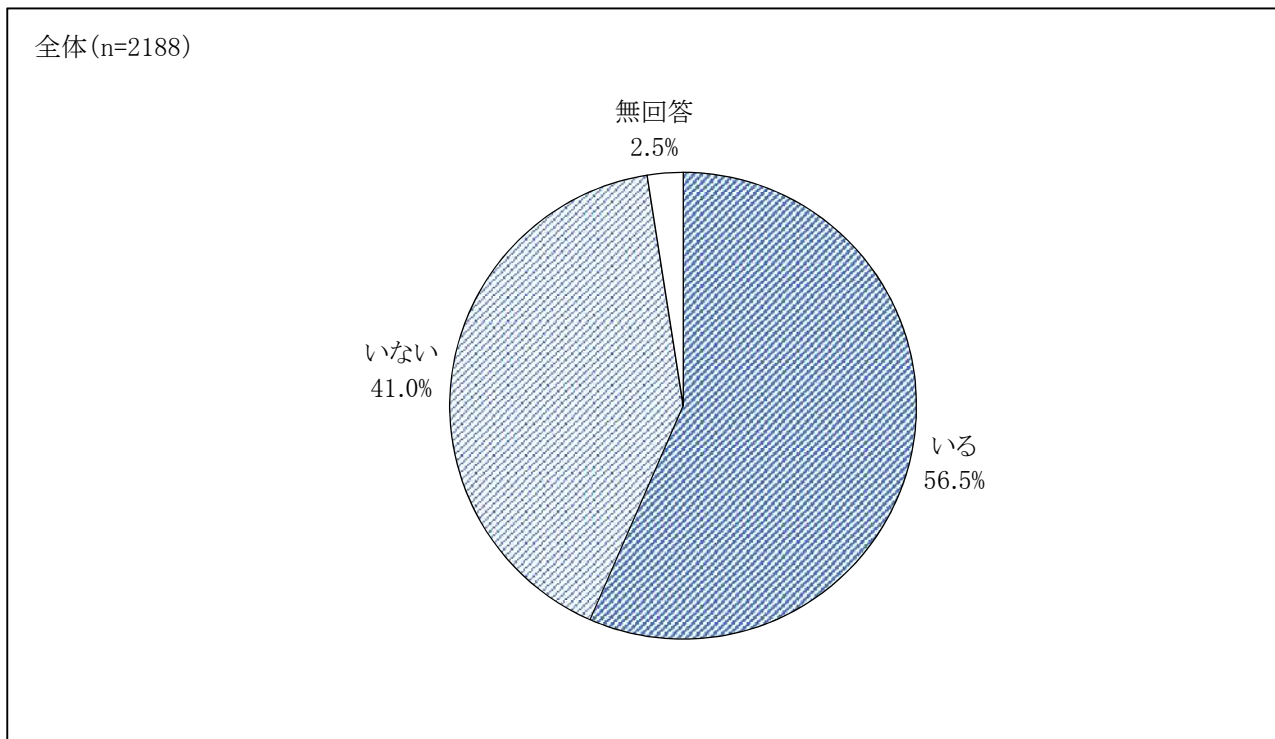


— 「ほとんど毎日」が7割半ば —

誰か（家族・友人・知人等）と一緒に食事をする頻度は、「ほとんど毎日」が76.7%で、7割半ばとなった。「週に3〜4回程度」が4.9%、「週に1〜2回程度」が7.5%、「ほとんどない」が9.9%となった。

(3) 農林漁業体験の参加者の有無

問12 これまで、あなたまたはあなたの家族の中で農林漁業体験に参加したことのある人はいますか。(○は1つだけ)

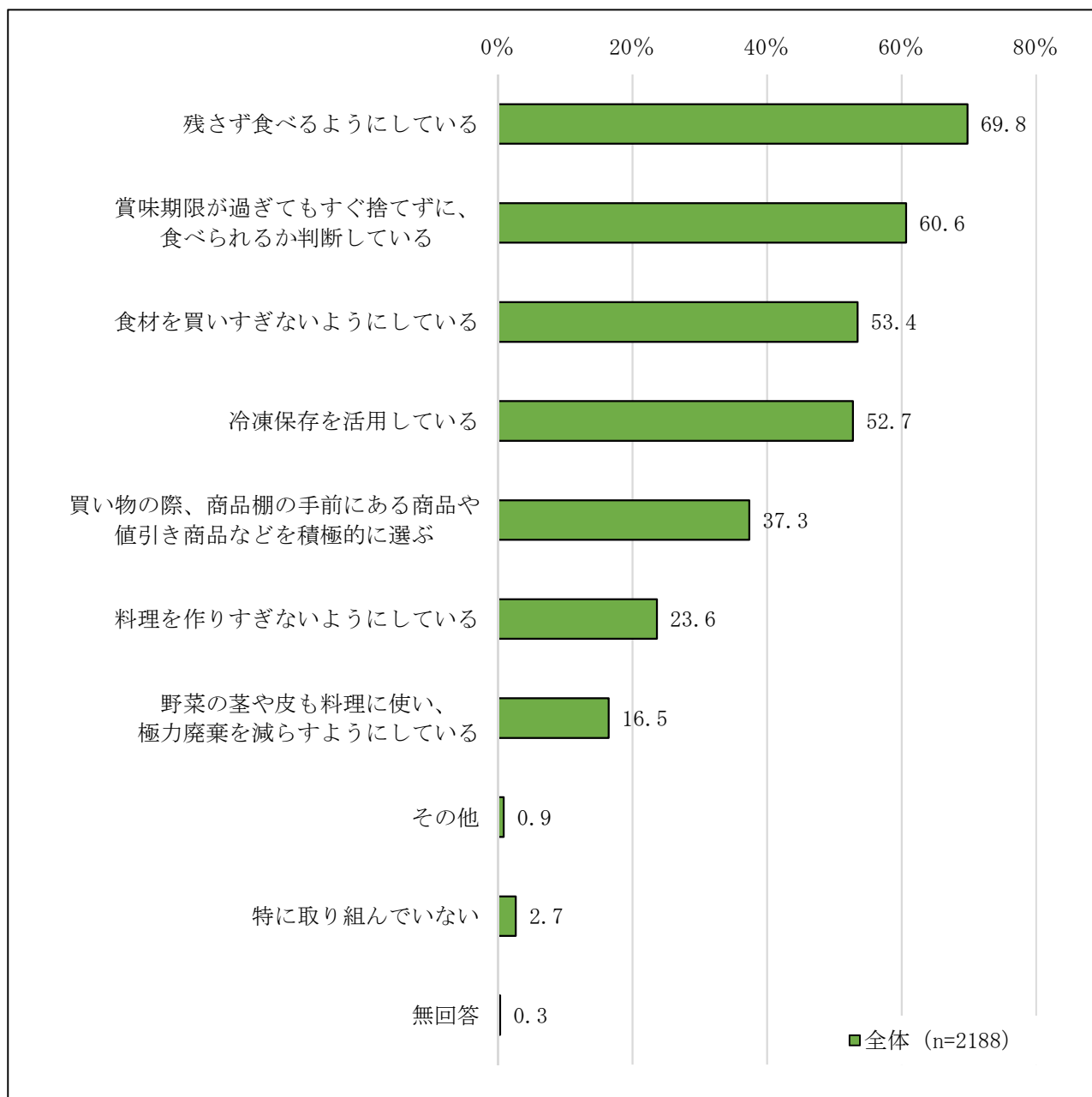


— 「いる」が5割半ば —

農林漁業体験の参加者の有無は、「いる」が56.5%で、5割半ばとなった。「いない」が41.0%となった。

(4) 食品ロス削減の取り組み

問13 あなたは、食品ロスを減らし、食べ物を無駄にしないように、取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

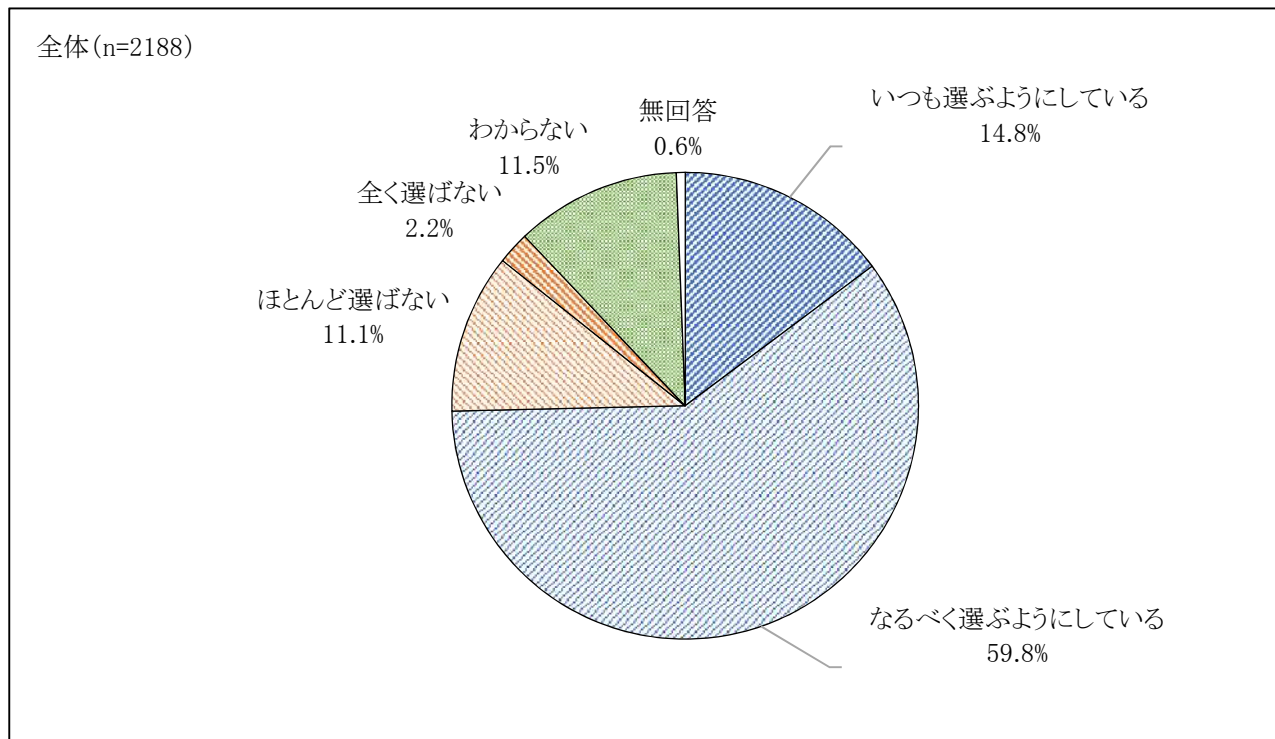


— 「残さず食べるようにしている」が約7割でトップ —

食品ロス削減の取り組みは、「残さず食べるようにしている」(69.8%)が最も割合が高く、約7割となった。次いで「賞味期限が過ぎてもすぐ捨てずに、食べられるか判断している」(60.6%)、「食材を買いすぎないようにしている」(53.4%)、「冷凍保存を活用している」(52.7%)の順で続く。

(5) 身近な場所（県内）でとれたものを選ぶか

問14 あなたは食材を選ぶ際に、身近な場所（県内）でとれたものを選ぶようになっていますか。
(○は1つだけ)

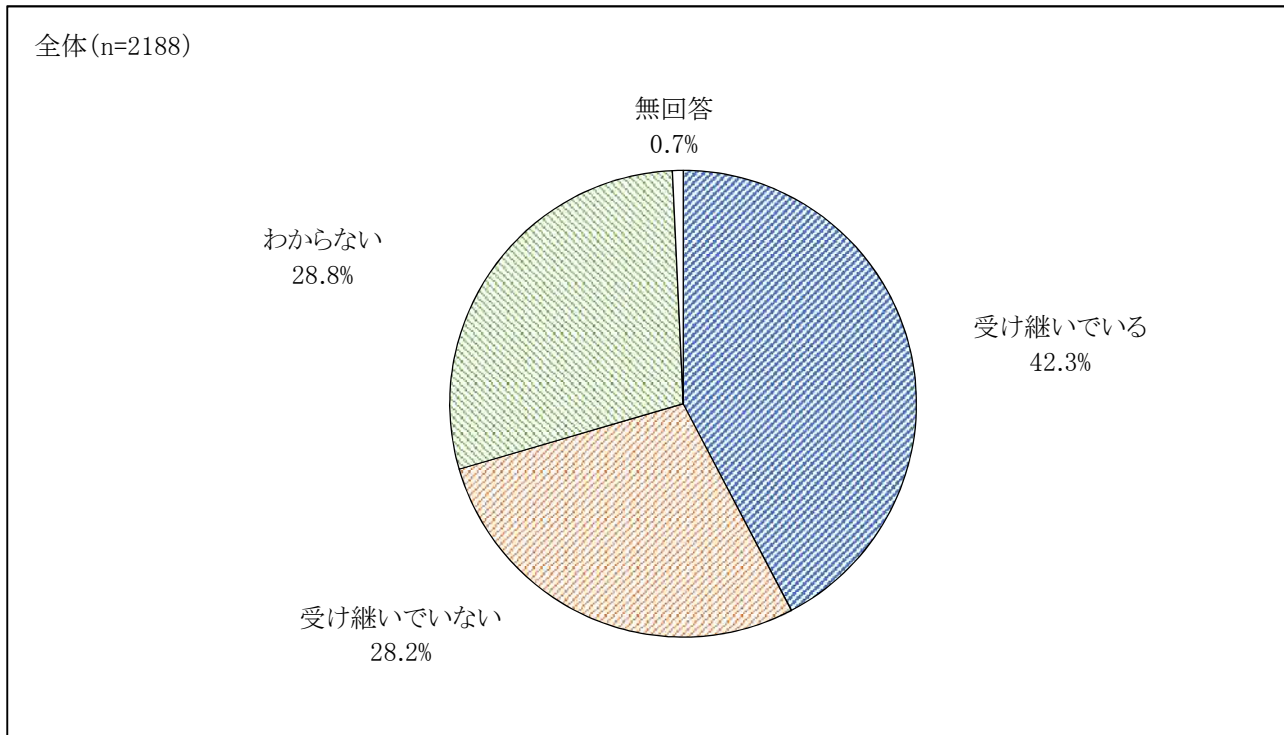


— 『選ぶようになっている』が7割半ば —

身近な場所（県内）でとれたものを選ぶかは、「いつも選ぶようになっている」と「なるべく選ぶようになっている」を合わせた『選ぶようになっている』が74.6%で、7割半ばとなった。「ほとんど選ばない」と「全く選ばない」を合わせた『選ばない』が13.3%、「わからない」が11.5%となった。

(6) 食文化（郷土料理や行事食）の継承

問15 あなたは、食文化（郷土料理や行事食）を受け継いでいますか。（○は1つだけ）



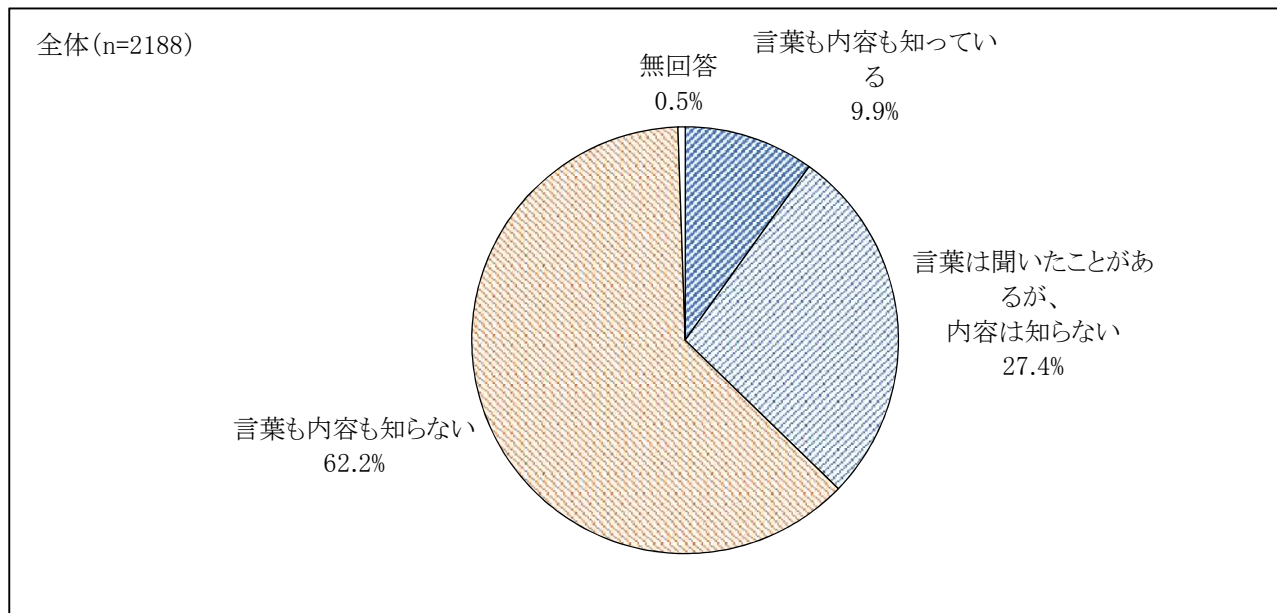
— 「受け継いでいる」が4割強 —

食文化（郷土料理や行事食）の継承は、「受け継いでいる」が42.3%で、4割強となった。「受け継いでいない」が28.2%、「わからない」が28.8%となった。

4. 新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例（共生条例）について

（1）「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例（共生条例）」の認知度

問16 あなたは「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例（共生条例）」を知っていますか。（○は1つだけ）



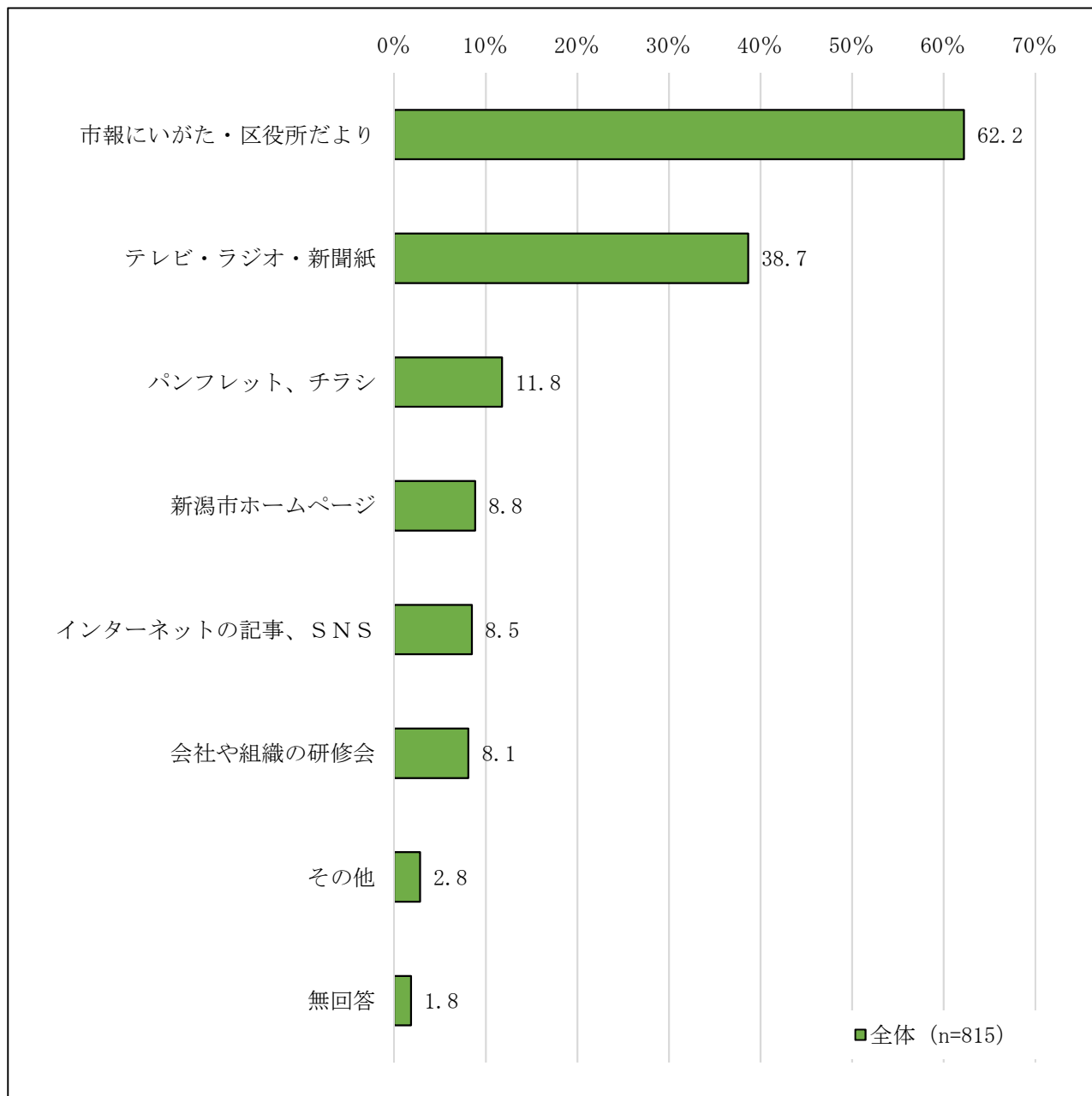
— 「言葉も内容も知っている」は約1割 —

新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例（共生条例）について、「言葉も内容も知っている」が9.9%で、約1割となった。「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」が27.4%、「言葉も内容も知らない」が62.2%となった。

(2) 共生条例を知ったきっかけ

問17 問16で1「言葉も内容も知っている」、2「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」をお答えになった方にお聞きします。

共生条例を知ったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

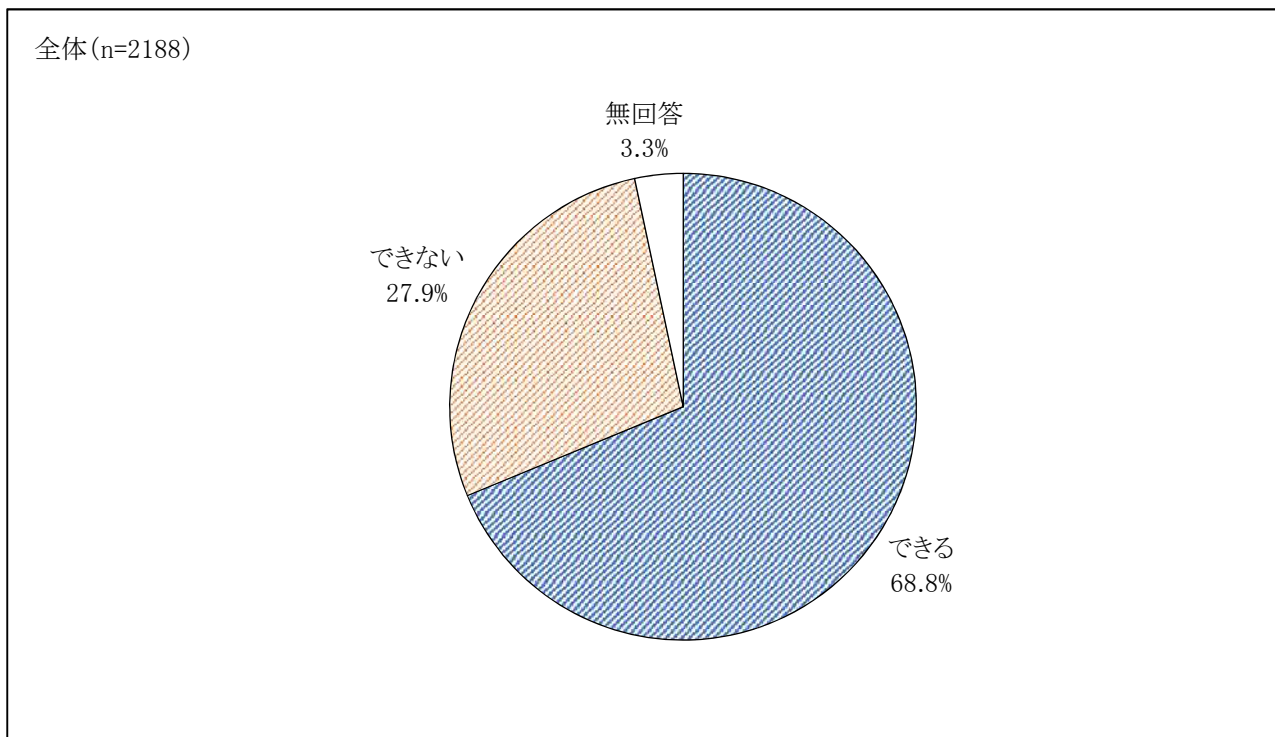


— 「市報にいがた・区役所だより」が6割強でトップ —

共生条例を知ったきっかけは、「市報にいがた・区役所だより」(62.2%)と答えた割合が6割強、「テレビ・ラジオ・新聞紙」(38.7%)と答えた割合が約4割と高く、他は低い。

(3) 「障がい」を理由とした差別」の具体的なイメージ

問18 どのような状況が「障がい」を理由とした差別」に当たるのか具体的にイメージできますか。
(○は1つだけ)



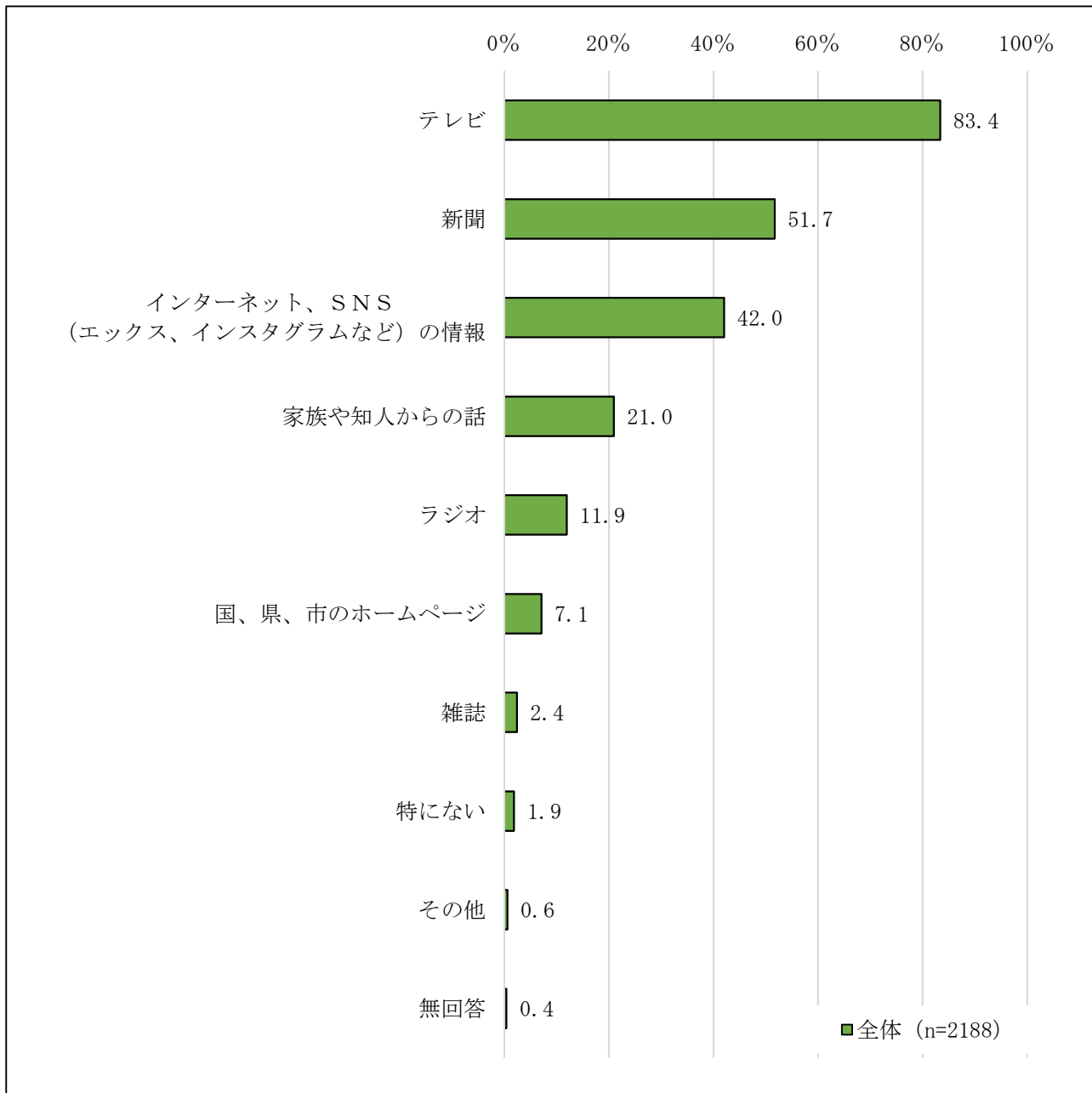
— 約7割が「障がい」を理由とした差別」を具体的にイメージ「できる」 —

「障がい」を理由とした差別」の具体的なイメージは、「できる」が68.8%で、約7割となった。「できない」が27.9%となった。

5. 選挙への意識について

(1) 政治や選挙に関する情報源

問19 あなたは、ふだん政治や選挙に関する情報を何から得ていますか。(〇は3つまで)



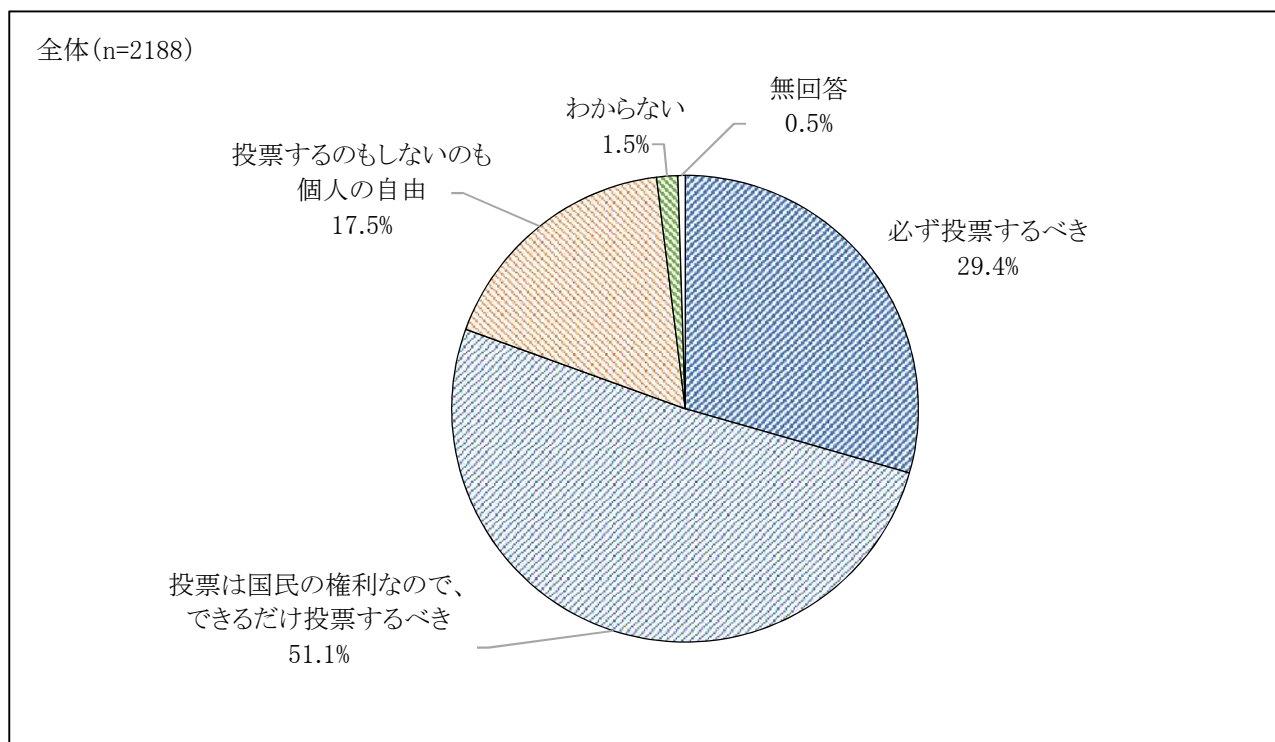
— 「テレビ」が8割強でトップ —

政治や選挙に関する情報源は、「テレビ」(83.4%)が最も割合が高く、8割強となった。次いで「新聞」(51.7%)、「インターネット、SNS (エックス、インスタグラムなど) の情報」(42.0%)、「家族や知人からの話」(21.0%)、「ラジオ」(11.9%)の順で続く。

(2) 選挙の投票に対する考え方

問20 あなたは、選挙の投票についてこの中のどれに近い考えを持っていますか。

(○は1つだけ)

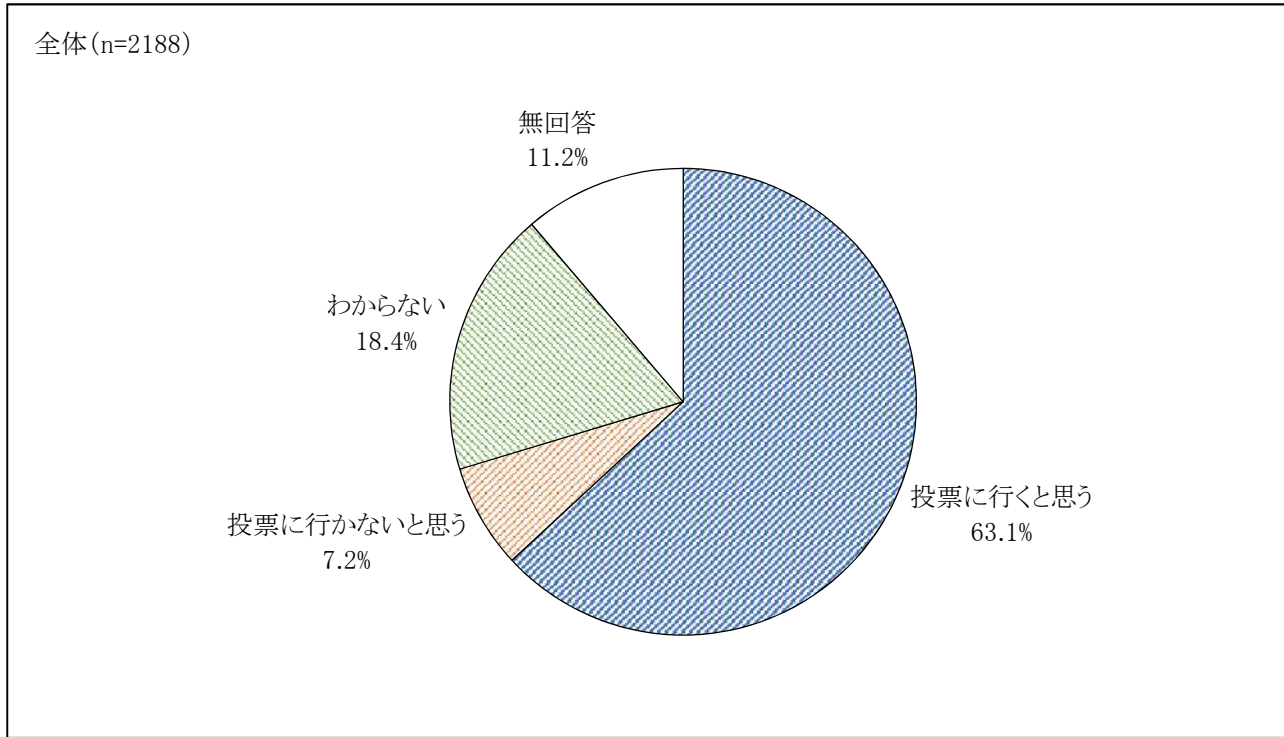


— 約3割が「必ず投票するべき」と考えている —

選挙の投票に対する考え方は、「必ず投票するべき」が29.4%で、約3割となった。「投票は国民の権利なので、できるだけ投票するべき」が51.1%、「投票するのもしないのも個人の自由」が17.5%、「わからない」が1.5%となった。

(3) 投票に行こうと思うか

問2 1 次の選挙には（15～17歳の方は18歳になったら）、投票に行こうと思いますか。
（○は1つだけ）



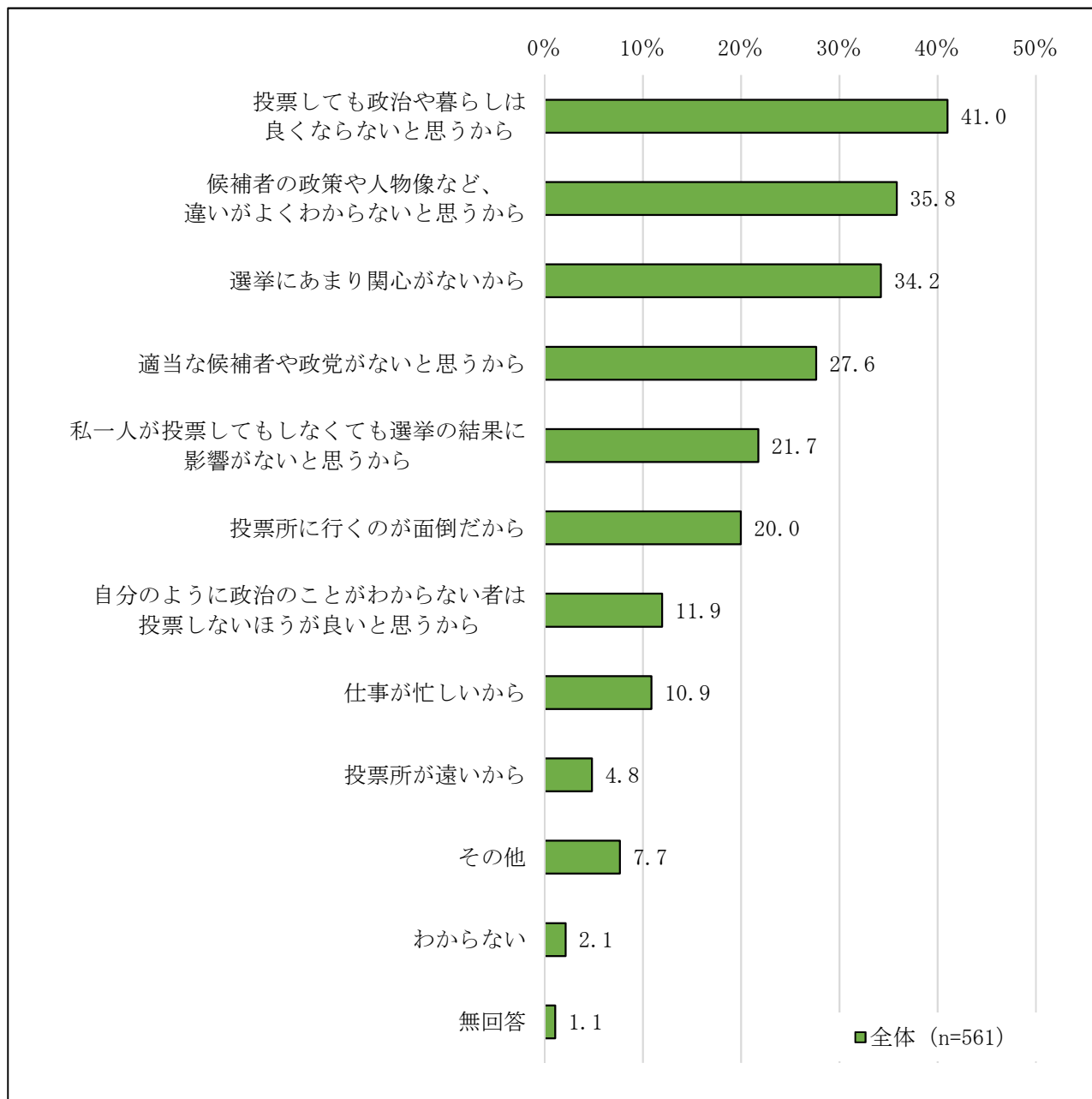
— 「投票に行くと思う」が6割強 —

投票に行こうと思うかは、「投票に行くと思う」が63.1%で、6割強となった。「投票に行かないと思う」が7.2%、「わからない」が18.4%となった。

(4) 投票に行かない、わからないと思う理由

問22 問21で2「投票に行かないと思う」、3「わからない」とお答えになった方にお聞きします。

投票に行かない、わからないと思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

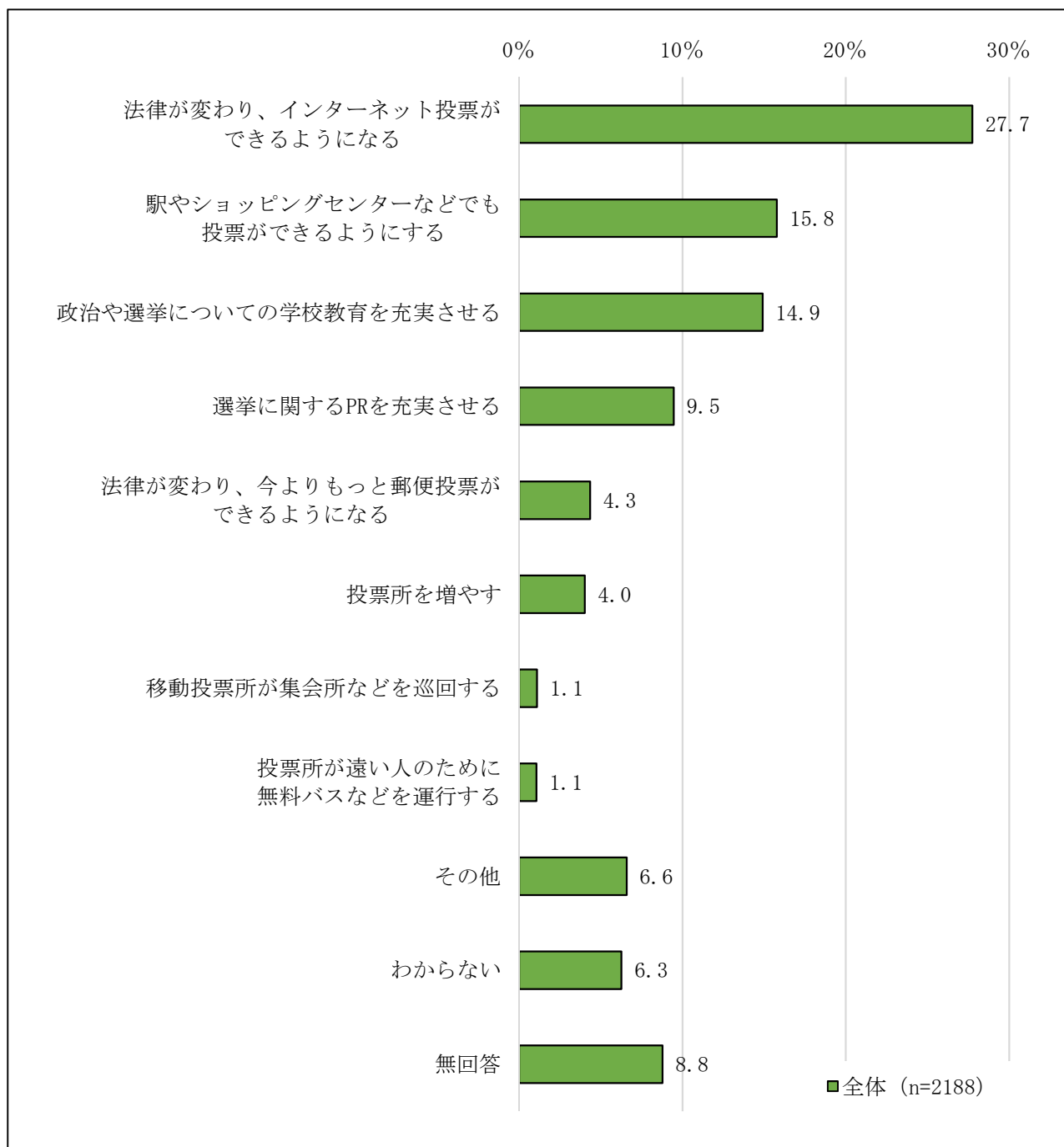


— 「投票しても政治や暮らしは良くなると思うから」が約4割でトップ —

投票に行かない、わからないと思う理由は、「投票しても政治や暮らしは良くなると思うから」(41.0%)の割合が最も割合が高く、約4割となった。次いで「候補者の政策や人物像など、違いがよくわからないと思うから」(35.8%)、「選挙にあまり関心がないから」(34.2%)、「適当な候補者や政党がないと思うから」(27.6%)、「私一人が投票してもなくても選挙の結果に影響がないと思うから」(21.7%)、「投票所に行くのが面倒だから」(20.0%)の順で続く。

(5) 投票率向上に有効な対策

問23 最近の選挙では全国的に投票率が低下してきています。多くの方から投票してもらうには、どのような対策が有効だと思いますか。(〇は1つだけ)



— 「法律が変わり、インターネット投票ができるようになる」が3割弱でトップ —

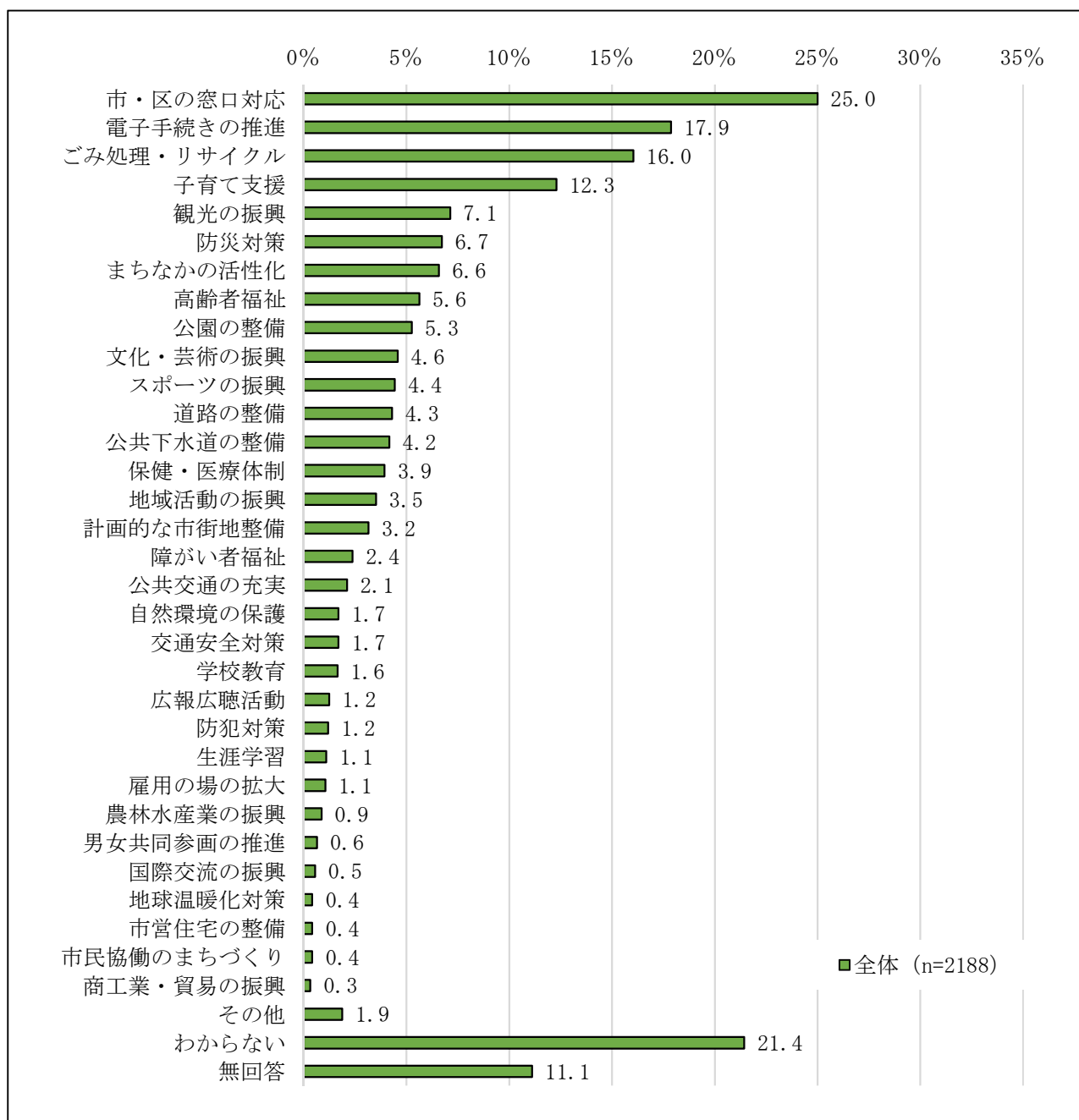
投票率向上に有効な対策は、「法律が変わり、インターネット投票ができるようになる」(27.7%)の割合が最も高く、3割弱となった。次いで「駅やショッピングセンターなどでも投票ができるようにする」(15.8%)、「政治や選挙についての学校教育を充実させる」(14.9%)の順で続く。他は1割を下回っている。

6. 市政全般と区政について

(1) 新潟市として良くなっているもの

問24 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

①「新潟市として良くなっているもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、次のページの回答欄に番号(1~34)をご記入ください。

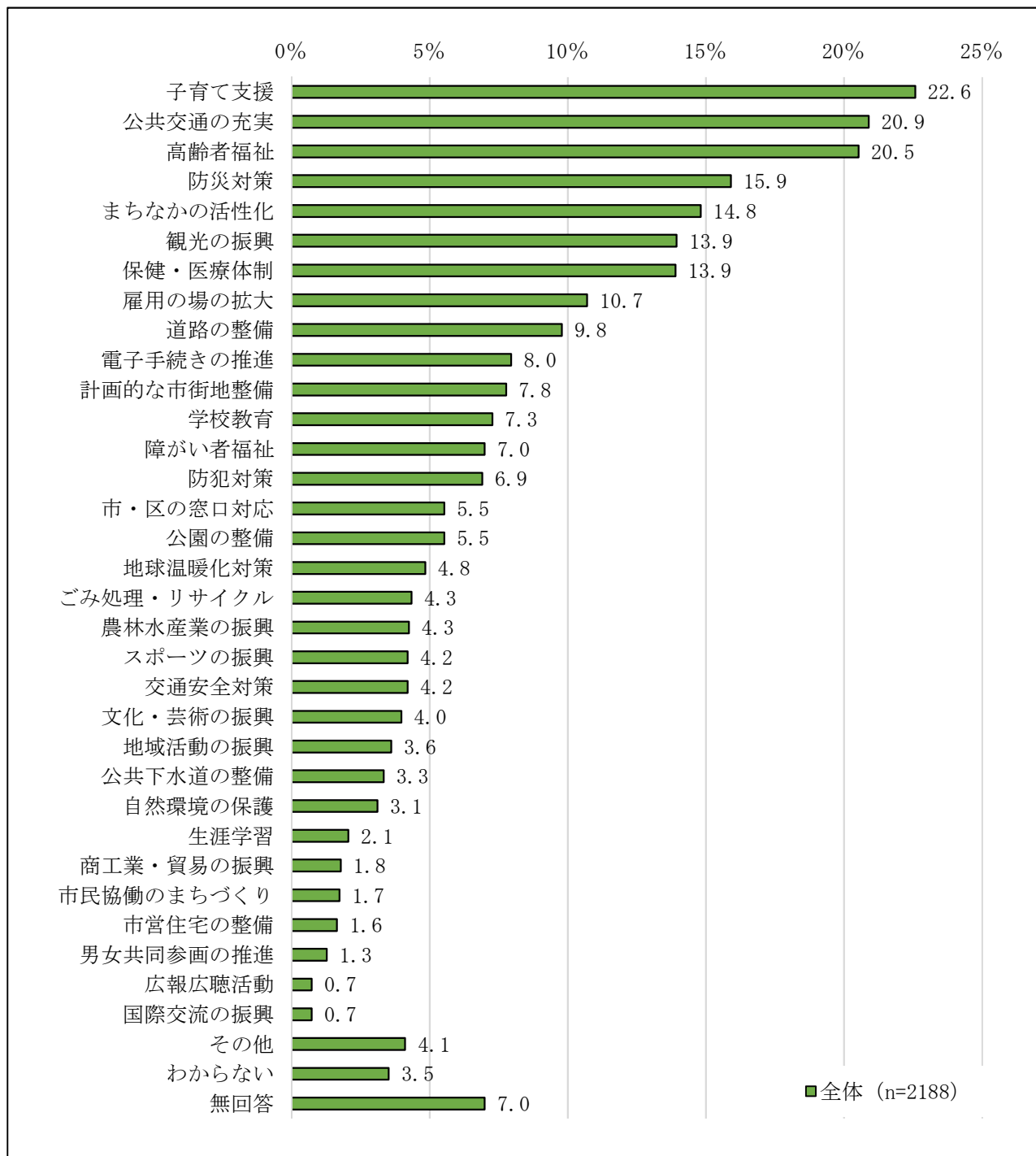


— 「市・区の窓口対応」が2割半ばでトップ —

新潟市として良くなっているものは、「市・区の窓口対応」(25.0%)の割合が最も高く、2割半ばとなった。次いで、「わからない」(21.4%)、「電子手続きの推進」(17.9%)、「ごみ処理・リサイクル」(16.0%)、「子育て支援」(12.3%)の順で続く。

(2) 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの

問24 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて
 ②「新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの」を次の中からそれぞれ3つまでを
 選んで、次のページの回答欄に番号(1~34)をご記入ください。

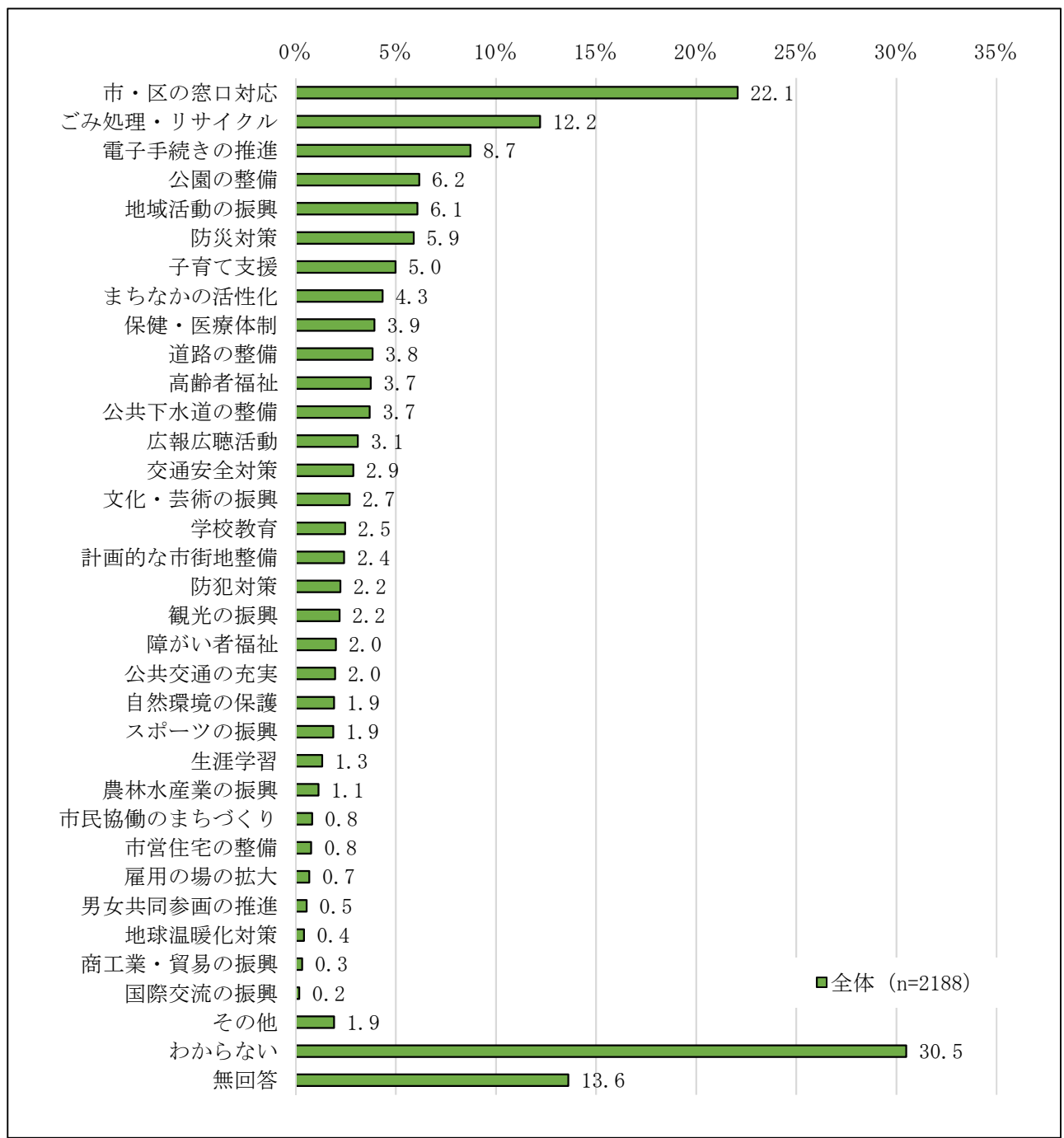


— 「子育て支援」が2割強でトップ —

新潟市として今後もっと力を入れてほしいものは、「子育て支援」(22.6%)の割合が最も高く、2割強となった。次いで、「公共交通の充実」(20.9%)、「高齢者福祉」(20.5%)、「防災対策」(15.9%)の順で続く。

(3) 区として良くなっているもの

問24 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて
 ③「区として良くなっているもの」を次の中からそれぞれ3つまでを
 選んで、次のページの回答欄に番号(1~34)をご記入ください。

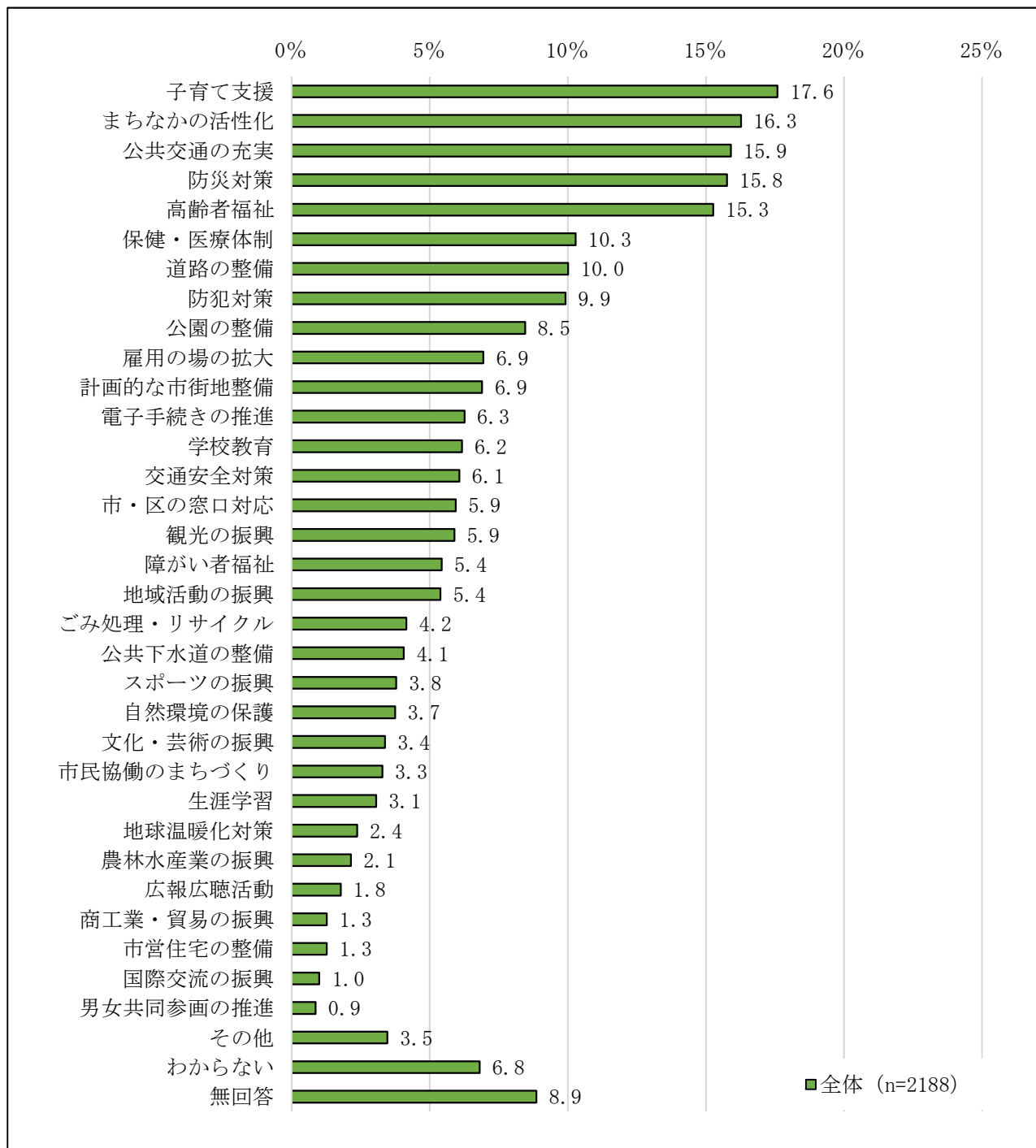


— 「わからない」が約3割でトップ —

区として良くなっているものは、「わからない」(30.5%)の割合が最も高く、約3割となった。次いで、「市・区の窓口対応」(22.1%)、「ごみ処理・リサイクル」(12.2%)、「電子手続きの推進」(8.7%)の順で続く。

(4) 区として今後もっと力を入れてほしいもの

問24 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて
④「区として今後もっと力を入れてほしいもの」を次の中からそれぞれ3つまでを
選んで、次のページの回答欄に番号(1~34)をご記入ください。



— 「子育て支援」が2割弱でトップ —

区として今後もっと力を入れてほしいものは、「子育て支援」(17.6%)の割合が最も高く、2割弱となった。次いで、「まちなかの活性化」(16.3%)、「公共交通の充実」(15.9%)、「防災対策」(15.8%)、「高齢者福祉」(15.3%)の順で続く。

第 5 1 回 市政世論調査

《概要版》

(令和 6 年度)

発 行 : 令和 6 年 10 月

発行者 : 新潟市市民生活部広聴相談課

〒951-8550

新潟県新潟市中央区学校町通 1 番町 602 番地 1

電話:025-226-2094